

日本ジャグリング協会オフィシャルマガジン

Shall We Juggle?



JJF2017 福岡特集



JJF FUKUOKA 2017
NOW IN ACTION

No.59



Japan Juggling Festival 2017

JJF2017

福岡特集

振り返ってみれば過去18回は全て本州での開催。

2017年、JJFがついに九州に上陸しました。

北海道や四国での開催はいつになるかな…と思いを馳せるその前に、

JJF2017 in 福岡を振り返ってみましょう。

福岡ソフトバンクホークスのパ・リーグ優勝決定から数日後。

野球ファンの勢いに負けじと盛り上がった

ジャグラーたちの様子をご覧ください。

もくじ

JJF2017福岡特集	3
実行委員長コメント	4
開催概要	5
JJF2017チャンピオンシップ	6
JJF2017チャンピオンシップ PHOTOS	11
JJF2017チャンピオンシップ 入賞者コメント	16
ゲストインタビュー Guillaume Karpowicz	18
ゲストインタビュー 望月ゆうさく	22
ゲストインタビュー 智士	26
日本ジャグリング協会 企画講演会 第9回 「ジャグラーと呼ばれて」	30
2017みんなのJJF	32
Welcome to JJF	36
JJF2017参加しての感想	38
開催ワークショップ一覧	40
エンデュランス競技会報告	41
フリーパフォーマンス	42
ジャグラー体力測定	42
広幡杯・夏目杯	43
JJF2017実行委員名簿	44
スタッフのコメント	45
理事会から	46

たまにつき

「福岡」
衝撃的な開催地発表から約1年。
今年は気候が「暖」かく、ジャグリングに「熱」く、人が「温」かい場所、九州・福岡にてJapan Juggling Festival（以下、JJF）が開催されました。

ジャグリングに対する【思い】を「見る・観る」だけではなく、「聞く・聴く」時代へ。
JJFに参加すると、誰からもジャグリングに対しての強い【思い】を感じます。
（もちろん【思い】という言葉は、理論、考え方、信念など、様々な言葉に置き換えることができます。）

その【思い】は、練習やパフォーマンスを通して、それをみている周囲の参加者や観客に伝わります。
自分とは異なる【思い】や初めての【思い】をみた時、感動や衝撃を感じ、自分の【思い】に変化が生じたり、自分の【思い】を一層強めたりするでしょう。

練習やパフォーマンス以外に、【思い】を伝える方法として、話すという手段も使われます。
「ジャグリングについて語る」ということです。
今年のJJFではこの手段が一つ特徴的であったと感じています。

例えば、第一線で活躍する国内ゲストのワークショップが、講座形式で開催されたことです。
様々な経験をして来られた方々が、ご自身のジャグリングに対しての【思い】を語る場所として、JJFが一層生きてくるようになったと思います。

様々な【思い】に触れて、これからジャグリングがどのように変化していくのか。
今年はどうような【思い】が込められていたのか。
参加者と実行委員の強い【思い】があるJJF2017を、ぜひ次のページからお楽しみください。

（ジャグリングを「身に付ける」「身に着ける」時代へ。）
（装飾品や自分をアピールするアイテムとして、ジャグリングを「つける」時代が来た。）
（Tシャツ、アクセサリ、ストラップ…更に多様化し、一層個性が出てくるであろう。）
（今後どのようなアイテムが登場してくるのか、個人的には非常に楽しみだ。）
（そして、つい購入してしまうのは『新しい時代に対しての投資だ』と自分に言い聞かせているのである。）

SWJ編集長 たまきゆかり

たま

実行委員長 米屋遊

Shall We Juggle? をご覧の皆さん、Japan Juggling Festival 2017 in Fukuoka (以下 J J F 2017) お疲れ様でした！ 日中はジムで、お互いの持てるスキルを見せ合いながら技術やアイデアを磨き、素敵なゲストのステージやみんなが結果に悩んだチャンピオンシップを楽しんだ後は、博多の繁華街で食事（とちよつとお酒）を楽しみながらの交流（普段は、直に会えない人たちとの交流や再会もまた、J J F の楽しみです。）。

様々な内容に富んだワークショップや恒例行事になりつつある Juggling Jam Session。

今回の J J F も例年の J J F 同様、いや、それ以上に楽しい J J F であつたと自負しております。

福岡開催の中心となつて八面六臂の大活躍してくれた近土君、花田君。そして九州のジャグラの皆さん。「皆さんのお力があつてこそ J J F 2017 でした。」この一言に尽きます。

そして、あちらこちらでお手伝いしてくださつた方々、どの方も一様に「大変だけど楽しい。」と笑顔で答えていただいた事を大変嬉しく思います。

また、どこかの会場で私を見かけたら、遠慮なく声をかけてください。ジュースの1本ぐらいはおくれますよ。

例年、J J F の実行委員になつてくださっている方々。

J J F 史上初の九州開催、私事の都合でいろいろと気を揉まれたことを大変申し訳なく思っております。

しかしながら、皆様が今まで培ってきたノウハウのおかげで J J F 2017 は無事終了することができました。

J J F の地方開催はその是非が問われるほどの大変さがありますが、J J F 2017 の様子を見て、J J F の地方開催の意義はあるものと思ひました。

その際には力を貸していただけると嬉しいです。

少しか私のお話におつきあいください。

閉会式の時にも話しましたが、私が J J F の実行委員になつたのは2006年。月日が経つのは早いものです。

私はこの10年ほどの中で「参加者が J J F というイベントに求めているもの」が変化しつつあると感じています。

それと同時に今の J J F の運営システムの限界や問題点も見えてきました。

そしてこれからの J J F は長期的な視点でイベントをデザインする必要があると考えています。

これらについては私も今までの経験をもとにお手伝いしていこうと考えております。

しかしながら、多くの方の新しい意見やお手伝いも必要です。

参加する側から見る J J F と違う楽しみ方ができますよ。

それではまた来年東京でお会いしましょう！

開催概要

Japan Juggling Festival 2017 in Fukuoka

日程：2017年9月22日(金)～9月24日(日)

場所：福岡国際会議場

ゲストステージ 9月22日(金) 20:00 開演

チャンピオンシップ 9月23日(土) 17:30 開演

参加人数

参加総数 561名

ゲストステージ 543名

チャンピオンシップ 611名



予選講評

北島大輔

2017年度の予選は審査委員13名により行われました。
各部門のエントリー組数↓審査による決勝進出組数は下記の通りでした。
男子個人部門 21組↓8組
女子個人部門 8組↓4組
チーム部門 3組↓3組
合計 32組↓15組
(女子個人部門の1組はエントリー取り消しのため予選審査の対象になつたのは8組中7組。チーム部門の1組は棄権により決勝で演技を行ったのは3組中2組で、上記にはこれらの組数も含んでいます)
1部門のエントリー数が多い場合は予選審査を行う前にその部門について予備予選が行われる場合がありますが、本年度はその必要性が無いとの判断により予備予選は行われず、1度の予選のみで決勝進出者が決定しました。
エントリー数はJJF開催場所や開催時期により増減するようですが、審査料を徴収するようになった2015年から全部門の合計30〜40組の間で、それ以前より低い組数で推移しています。(因みに2011年度〜2013年度にかけては、65〜79組のエントリーがありました)
男子個人部門は予選通過の競争率が例年概ね3倍前後と厳しくなっていますが、それに比較すると女子部門、チーム部門は競争率が低い傾向が続いています。
特に本年度のチーム部門のエントリー数は3組で、「各部門3組以上」の規定により全組が自動的に決勝進出が決定しています。

本大会には日本におけるジャグリングの発展を総合的に促進するという目的もありますので、特に出場(エントリー)するかどうか迷う方は是非積極的にエントリーして頂きたいと思います。
予選は提出されたビデオ映像により行われています。
この予選で各審査委員は、審査基準に則り、各基準項目を検討した上で、決勝進出にふさわしいか否かの判断を行います。
全員の集計を行った上で、各部門3組以上10組以下という制約の下、OKの数の順に通過者を決定しました。
今回は上位15組を決定した時点で当落線上に複数候補が並ばず、予選通過者はスムーズに確定しました。実際男子部門の通過者の上位6名、女子部門の通過者4名については大半の審査委員がOKを出しており、大枠において意見の相違は少なかったと感じます。
利用数の多い使用道具を見ると、ボールが最多の8組で、次にディアボロの6組、シガーボックスの5組、リング3組でした。2014年度以降、ボール・ディアボロ・シガーボックスの利用数が多い傾向が続いています。また2015年度以降は、それまで多かったクラブの使用数が減少しています。
前述のように現在、予選は提出されたビデオ映像により行われています。
演技の内容としては平均的に完成度の高いものが多いと感じますが、しばしばステージ上での生の演技と比較した場合の動画特有の欠点が見受

けられます。
下記は一般的な例ですが、
・道具や体の動きが見えにくい部分があるもの
・一部、映像から道具や体が切れているもの
・大きく角度がずれていた、画面が常に動いていて、映像として見にくいもの
・演技に対して画角を大きく取り過ぎ、表情などの細部が見にくいもの
また、原則として
・出場者以外の者がジャグリングを行う映像が映ってはいけません
事になっています。
映像の出来や見易さは勿論評価対象ではありませんが、各々の技や動きの細かい部分など、伝わらなければ正しく評価されない可能性があり、伝わらなかった部分が演技上重要な要素である場合、生の演技と提出映像が別物のように見られてしまう事もあると思います。そのような事は提出者としても避けたいと思うはずで、
各審査委員は映像として映っているものを見逃さず、また理解しようと努めています。限られた時間の中で把握できる事には限界があります。
また映像から見えない部分や切れて映っていない部分については、基本的には評価する事ができません。
撮影場所など環境の制限や、録画演技はミスが少なく上手にいったので、録画に難があるがそれを提出する、といった事情もあると思います。しかし動画制作の過程で、見る側がどのように感じるかを意識し、印象を改善しようという気持を持つ



観客席



会場ロビー

だけで、より伝わりやすい映像になる可能性があると思います。
エントリーされる方は是非、意図した通りのものが映っているか、伝えたいものがこれで良いか、といった観点から提出前に再度チェック頂けると良いかと思っています。
生の演技ではないという点では異なりますが、ステージでの演技を考慮し、また動画を撮影して人に見せる事もパフォーマンスの1つであるという意識を持って、準備に取り組んで頂けると良いのではないのでしょうか。

JJF2017 チャンピオンシップ

予選審査結果



道具の利用数 (出場取り消しを除く)

道具	男子個人	女子個人	チーム	合計
ボール	4	2	2	8
ディアボロ	4	2		6
シガーボックス	3	2		5
リング	2		1	3
デビルスティック	2			2
フラワースティック	2			2
クリスタル (100mm)	1			1
ハット	1			1
けん玉	1			1
皿回し	1			1
ボール12個	1			1
クラブ		1		1
spinning plate			1	1
合計	22	7	4	33

予選審査委員

ミス・サリバン、たくぞー、藤村保志花、齋藤哲範、ぱわぁ、chie、フレディ、北島大輔、中野慧 (審査委員長)、社長、宮野玲、KiM、亀井大輝 ※敬称略

予選エントリー

部門	組数
男子個人	21
女子個人	8
チーム	3
合計	32

決勝進出

部門	組数
男子個人	8
女子個人	4
チーム	2
合計	14

決勝講評

亀井大輝

続いてはチーム部門ですが、2チームによる真つ向勝負となりました。2位の「YT」の二人はボールとリングの二種類の道具を使って難易度の高いペア技をテンポ良く成功させており、チームとしてのレベルの高さだけでなく、二人それぞれの技量の高さと幅広さが伺えました。そんな彼らとの戦いを制した

まず、女子個人部門は予選エントリー7名から選ばれた4名での争いとなりました。今年も個性豊かな女性ジャグラーたちによる戦いが見られ、間所萌さんは「演出」、3位の鈴木さんは「希索性」、2位の須藤麻希さんは「安定感」を自分の武器として最大限に活かしていたのが印象的でした。そんな拮抗した戦いを見事制した横巻晴香さんはそれら全ての項目をバランス良く高いレベルで実現しており、なおかつ本番の失敗も少なかったことが優勝の決め手となったと言えるでしょう。女子個人部門全体を通しては、男子個人部門でも見られないような珍しい技がいくつか見受けられ、国内の女性ジャグラーたちによる「この技を見せたい」「この技を極めたい」というこだわりが高まっていることを感じました。

のは香港からやってきた「CBO juggling team」。評価すべきは日本国内ではほとんど前例のない、皿回しを使ったチーム演技です。実は香港において皿回しは人気のあるジャグリング道具であり、2017年の香港青少年ジャグリング大会のチーム部門には皿回しのチームが7組も出場していました。そんな彼らは日本の皿回しジャグラーたちの動画も参考にして練習しているそうですが、今回の「CBO juggling team」の演技を見ることで刺激をもらった日本の皿回しジャグラーも多かったのではないのでしょうか。「YT」と「CBO juggling team」、どちらのチームも個人の技術力がチームならではの協力技や構成によって、さらに魅力的なジャグリングへと昇華していることが分かる良いチーム部門でした。

です。最後の技を失敗してしまい、無音の中、技が成功するまでやり直す：我々ジャグラーにとって大会ではおなじみの光景で、それはそれで緊張感が高まり盛り上がることもあります。しかしせっかく曲に合わせ作り上げた演技が最後の最後で崩壊してしまう印象をお客さんに与えてしまうのは間違いありません。3位の田多加津輝さんと2位の貫井洋介さんは演技の最後で果敢に難易度の高い技に挑戦した結果、残念ながら一度では成功させることができませんでした。一方で1位の工藤正景さんも、最後の3ディアポロで1つディアポロをドロップしてしまいました。臨機応変に2ディアポロへ移行してしっかりと曲のフィニッシュと合わせて演技を終えていました。おそらく事前にその状況を想定して練習していたのでしょう。この差は、様々な要素を複合的に評価するジャグリング大会の採点方法においては、演技全体の評価や印象に大きく関わってきます。



審査結果発表



決勝メダル



司会 福島千紘さん

JJF2017 チャンピオンシップ

■ 決勝審査結果 ■

決勝進出者

男子個人 田多加津輝、貫井洋介、クロ助、武俣平、
工藤正景、八幡雄士、コータロー、杉戸洋太

女子個人 間所萌、須藤麻希、横巻晴香、鈴木

チーム CBO juggling team、YT

時間超過の場合の補正

超過秒数	補正
5	-1
10	-3
15	-6
20	-10
25	-15
30	失格

審査結果

男子個人 1位 工藤正景 2位 貫井洋介 3位 田多加津輝

女子個人 1位 横巻晴香 2位 須藤麻希 3位 鈴木

チーム 1位 CBO juggling team 2位 YT

決勝審査委員 ミス・サリバン、たくぞー、藤村保志花、齋藤哲範、ばわあ、フレディ、北島大輔、中野慧（審査委員長）、宮野玲、亀井大輝 ※敬称略

決勝集計

項目	集計値
演技時間合計	1時間12分26秒
制限時間オーバー	1組
ドロップ回数合計	80回

【男子個人】

演順	登録名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	順位点合計	補正	合計
8	田多加津輝	3	2	3	4	4	2	4	3	2	4	39		39
9	貫井洋介	1	1	1	1	1	3	3	5	4	3	67	-1	66
10	クロ助	4	4	2	3	2	4	2	6	5	2	36		36
11	武 俣平	6		4			5				5	8		8
12	工藤正景	2	3	5	6	3	1	1	1	1	1	66		66
13	八幡雄士											0		0
14	コータロー	5	5		2	5		6	4	6		16		16
15	杉戸洋太		6	6	5	6	6	5	2	3	6	18		18

【女子個人】

演順	登録名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	順位点合計
1	間所萌	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	31
2	須藤麻希	2	2	2	2	3	3	1	2	3	1	57
3	横巻晴香	1	1	1	1	1	1	2	3	2	3	78
4	鈴木	3	3	3	4	2	2	3	1	1	2	54

【チーム】

演順	登録名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	順位点合計
6	CBO juggling team	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	90
7	YT	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	60

名前の後の10個の数字が10名の審査委員のつけた1位～6位です。7位以降は空欄にしています。10名の審査委員は匿名で、左からA、B、C、D、E、F、G、H、I、Jさんとなります。部門によって並べ方が違うので、例えば男子個人部門のA審査委員と女子個人部門のA審査委員は別の人である可能性があります。順位点は1位から順に10、5、4、3、2、1点となります。審査を行ったのは各部門3位までであり、4位以下の審査は行っていないです。順位外の方々の順位点は参考値であり、点数の順番が順位となるわけではありません。＊各部門の順位はチャンピオンシップ開催要項に従い審査決定

チャンピオンシップ総評

審査委員長
中野慧

今年のチャンピオンシップ決勝は大変な接戦となり、順位を決定するうえで私たち審査委員はいくつもの難しい判断をせねばなりませんでした。予選の段階でも、決勝進出を果たした応募者とそうでない応募者との線引きは非常に微妙なもので、そこに絶対的な差があるわけではありませんでした。審査委員の多くはチャンピオンシップ決勝を経験したことがあり、その舞台に立つことの興奮がどのようなものか、よく知っています。だからこそ、評価の質を向上させるべく努力しています。

すべての予選応募者・決勝出場者ができる限り公平に正当に評価するための拠り所が、明文化された審査基準です。ここでは、「審査基準」をキーワードとして今年のチャンピオンシップを振り返るとともに、今後チャンピオンシップに出場しようという意志をもったジャグラータちの一助となる総評を書ければと望んでいます。

予選はやり直しがきくため技術点の水準が全体的に高くなるのに対し、決勝は、やり直しのきかない一回限りの勝負です。したがって、決勝の評価では完成度が出場者によって大きくばらつく可能性があります。パフォーマンス点がいかに高くとも、ミスが多い演技であれば、総合的に高い評価を得ることは難しくなります。難易度の追求に妥協点を設定するのは難しいことですが、やはりこのでも、審査基準に立ち返り、すべての項目が同じ重みで評価されるということを忘れないでいただきたいと思います。

開催要項には、演技の完成度、難易度、構成、エンターテインメント性、希少性の五項目を「同じ重みづけ」で評価するということが明記されています。技術点と希少性が同水準であれば、構成とエンターテインメント性というパフォーマンス点の差がそのまま評価の差となります。審査基準はすべての応募者でできる限り公平に評価するためのものであり、私たち審査委員はそれに極力忠実に従って点数をつけます。ある演技に特別に感銘を受けたとしても、もしそれが何かしらの項目において水準の低いものであれば、チャンピオンシップという場における評価は低いものとせざるをえません。今後の応募者には、これをよくよく意識したうえで構成を練っていただければと思います。

決勝の審査では、開催要項に書かれているように、各審査委員の評価による順位点をもとに一位から順にどの出場者がふさわしいかを議論し、入賞者を決めていくというプロセスをとりました。とくに複数の出場者の順位点に近い水準となった場合には、審査時間が限られてはいましたが（そして多少の超過をしてしまいました）、できるだけの議論を尽くしました。その議論の詳細を語ることはできませんが、「審査基準に照らしてより高く評価されるべきなのはどちらか」という観点が前提となつているということは述べておきたいと思っています。

こうして私たち審査委員は、誰にも公平に開かれたルールのもとで、できる限りの努力の末に、入賞者を決定しました。入賞者の皆さんが、今年の激戦を制したということを誇りに思っていたければ、審査委員としてこれ以上の喜びはありません。



決勝審査委員（前列左から、亀井大輝、森村保志花、中野慧、ミス・ザリバン、フレディ、後列左から、齋藤智恵、北島大輔、なぐさー、ばね、雪野玲、※敬称略）

委員候補が評価能力の向上に努めるのと同時に、異なる知見をもった経験豊かなジャグラータに新たな審査委員候補として加わっていただく必要があります。審査の質が下れば、チャンピオンシップ自体の価値が下がってしまいます。これまで、JJFチャンピオンシップは日本一のジャグラータを決める大会として、多くのジャグラータのあこがれの舞台であり続けてきました。この貴重な場を維持し発展させていくため、経験と知識と技術をもったジャグラータの皆様には、ぜひ審査委員候補として名乗りを上げていただきたいと思います。

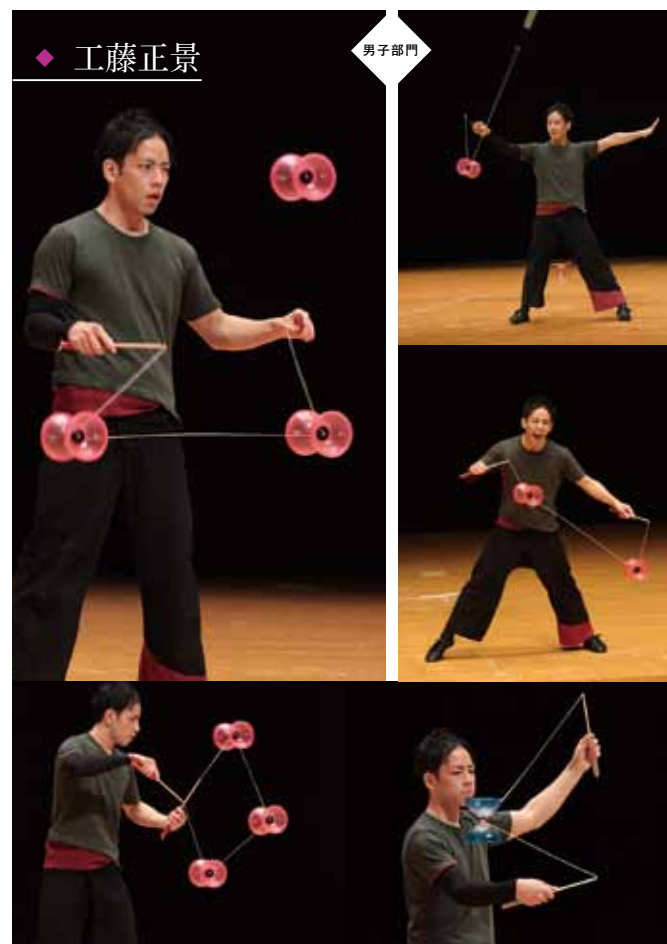




JJF2017 チャンピオンシップ

すばらしい演技が繰り広げられたチャンピオンシップ。
白熱した全ステージを写真で振り返ります。





チーム部門 銀賞 YT



ジャグリングを始めた頃から「いつか出場してみたい」と思っていたJJFチャンピオンシップという大舞台に出場できたことをとても嬉しく思います。今回のルーティンは中部学生ジャグリング大会でやったものを改良したもので、楽しいルーティンを目指して2人で作ってきました。後半にミスが少し目立ち、僕達的にはあまり満足のいく出来にはなりませんが、とても貴重な良い経験になり、また入賞という形にいただいたことをとても嬉しく思います。最後に、応援してくれた方々、温かい拍手や歓声をくれた観客の皆様、チャンピオンシップスタッフの皆様にご心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。ずっと憧れだったJJFの舞台で、チーム部門に出場できたことを嬉しく思います。（横山）

ずっと憧れだったJJFの舞台で、チーム部門に出場できたことを嬉しく思います。チーム部門は個人部門に比べて応募数が少ないです。ですが、チームでのジャグリングには、ソロのジャグリングに負けたくないくらい皆さんの魅力があります。だから、チームの魅力をぼく達の演技で伝えたいと思い、出場を決意しました。ぼく達の演技が、誰かのチームジャグリングを始めるきっかけになればと思います。応援してくださった方々、大会運営の皆様、そしてパートナーの横山くん、本当にありがとうございました。（竹内）

女子部門 銅賞 鈴木



2013年以来、4年ぶりの登場でした。忙しさのあまりジャグリングできない期間もありましたが、また戻ってこられたことを嬉しく思います。そこで、新天地にて室内練習環境を確保するための基礎でも書こうかなと思います。

1. 近くで練習会があればお邪魔してみる→詳しくそなひに聞いてみたり、SWJのイエローページやインターネット上の情報を参照したりすると良いと思います。2. 在住・通勤市町村の体育館や市民センターに突撃 3. 近隣市町村の同上 市外利用は料金が倍になったりしますが、ゴルフとかと比べると安い……はズです。床についての懸念がある場合は、マットを借りられるかどうかと聞くのと良いです。

ついでに、ちょっとだけ宣伝させてください。JJF2016, 2017と練習会があったクラブバレーですが、見た目よりもプレーが断然楽しいので是非是非やりましょう！日本クラブバレー協会の普段の活動は【https://twitter.com/clubvolley_jp】にて公開されていますので、お気軽に遊びに来てください！もちろん他の場所でも任意に練習会を開催してもらえるととても嬉しく思います。最後に、いつもお世話になっているみなさまに感謝を申し上げます。どうもありがとうございます！

チーム部門 金賞

CBO juggling team



Hello! We are CBO juggling team and we are jugglers from Hong Kong. We are grateful to take part in JJF this year. In fact, it is our first time to join JJF and we have experienced a lot in these three days. Valuable tricks exchange, amazing juggling show, first performance on international stage, all these have broadened our horizons. We gained lots of knowledge and experience, as well as happiness here. We also met and made friends with many jugglers from all over the world. To recall memories, it is enjoyable for all we experienced in JJF.

It is our pleasure to be participants of the championship stage as we knew that all other participants are wonderful jugglers. We appreciated to be the competitor of them. In fact, to join JJF competition this year, we practiced much harder in the past year. It made us excited when we knew that we were succeeded to be finalist and finally, we have got an award. It was already out of our expectation. For us, it is also a treasure opportunity to share our juggling to all the jugglers, and from the audiences' reaction, we believed that we accomplished our goal already. Hopefully more or less, you can remember that we, are Hong Kong jugglers! Finally, we must offer our heartfelt thanks to Mr. Takkaaki. He helped us a lot before and during JJF. Without his help, we might not participate and stand on the stage. We also acknowledged to the professional and helpful crews who assisted our preparation of performance. Their help resolved our concerns about the run down and therefore we could focus on our own preparation and brought our best performance to audiences. Once again, JJF is enjoyable and we look forwards to the JJF later on!

女子部門 金賞

横巻晴香



JJF2017で優勝することができました。今回の演技では、「大きな拍手と歓声を貰う」「面白いルーティンを見せる」という目標を持って挑みました。その目標について解説していこうと思います。

まず一つ目についてお話しします。きっかけは千葉大祭2016でした。当時、自分は緊張に弱く、観客なんて芋だと思って演技してしまえ！という気持ちで演じていました。その後、今瀬さんから「ルーティンを一人でやっているように見えた。盛り上がる演技とは、感情移入させ観客と一体になってルーティンをやるものだ。」とコメントを頂きました。そこから自分のルーティン観が変わり、観客を惹きつけ観客と一緒に作る演技を目指そうと考えるようになりました。今回のJJF本番では「ここで一技やります！注目してください！」「大きな拍手をください！」といったメッセージを観客全体に送りました。想像以上に大きな歓声と拍手を頂き、演じている自分も舞台を楽しむことができました。

もう一つの目標の「面白いルーティンを見せたい」について、お話しします。まず、面白いルーティンとは何か？というのは自分にとっての大きな課題でした。私は動画を何回も見て、良いルーティンは何故良いルーティンなのかを研究し、自分なりに答えを出して形にしました。自分の目指している方向性に近い、田崎杏さん、ブラックさん、せらさん、秋田さん、ほっしーさん、Possumの先輩の栗津さん、りょーたさん、じゃけさんの動画をよく見てそれぞれの良い要素を取り入れようと試みました。私の動画をよく見ると、似ている部分が見つかるかもしれません。

先ほど二つの目標について述べましたが、それを達成するために色々な人の協力を頂きました。ここには書ききれない程、数多くのエピソードがあります。一人ではきっと、ここまで来られなかったと思います。応援してくださった多くの方に感謝しています。本当にありがとうございました。

JJF2017 チャンピオンシップ



男子部門 銀賞

貫井洋介

2位をいただき、ありがとうございました。日頃から「ジャグリングの勝ち負けなんて別に付けなくていいじゃん」などと軽薄に標榜している僕ですが、改めて賞をいただいて僕のジャグリングを評価してくださった方たちの存在を感じると、やっぱり嬉しかったりしました。なんだか今まで他のジャグラーさんたちからもらってばかりの人生だったので、今回のルーチンを通して誰かに何かを返せたのなら幸せです。ようやくスタートラインという感じです。もっとボールと仲良くなります。

男子部門 銅賞

田多加津輝



こんにちは、田多加津輝です。まず、この場をお借りしまして、感謝を申し上げたいと思います。チャンピオンシップ出場にあたり、本当に沢山の方に応援を頂きました。本当にありがとうございました。ジャグリングを始めて今年で10年目ですが、本当に良い出会いに恵まれてきました。ジャグリングを始めたのは東海中学校入学まで遡り、豊田真希さんのエクスカリバージェノサイドを見たことがきっかけです。それから僕はジャグリングにのめり込むようになりました。東海の先輩方、本当にありがとうございました。5年経って高校2年生の時、僕にとってかけがえのない経験と出会いに恵まれました。日本ディアポロ協会の皆様、海外のディアポロプレイヤーとの出会いや、自分の技術の拙さの痛感、A-DREAMという新しいディアポロの宣伝で使っていただいたこと、どれも鮮明に覚えています。日本ディアポロ協会の皆様本当にありがとうございました。受験を経て、大学1年生の時、中部学生大会に出場しました。この大会で僕は沢山の方から認知され、以後沢山の応援を頂けるようになりました。この大会のおかげで、自分の方向性が定まったように思います。中部学生大会実行委員会の皆様ありがとうございました。そして今年、前々から僕が目標としていた方にご協力を頂きました。今回のチャンピオンシップの演技の曲を作ってくださいました。本当にありがとうございました。多くの出会いに恵まれ、チャンピオンシップという大舞台で演技できて本当に嬉しく思います。本当にありがとうございました。

入賞者コメント



男子部門 金賞

工藤正景

自分にとってJJFCSは憧れの舞台で、大学入学時にジャグリングを始めた頃から意識し続けていました。その大舞台で演技出来るだけでなく優勝することが出来て本当に嬉しかったです。せっかくなので、減多に話さないルーティンのことについて話します。二曲構成のうちの二曲目のルーティンは中部学生大会とAJDCに向けて作成したもので、当初はこのルーティンでJJFを目指すつもりはありませんでした。しかし自分の予想を超えて周りの方々から反響があり、であるならばこのルーティンをベースにして予選ビデオを撮ろうと考えました。ナンバーズが足りないと考えた自分は就職活動中にも関わらず4ディアポロを毎日練習し、さらに難易度の底上げをするためにトリプルビルエットジェノサイドと3ディアポロトリックを追加しました。自分は過去のCS出場者のディアポロプレイヤーに大きく影響を受けていたので、その人たちと自分をどう差別化するかということを常に考えていました。

使用楽曲からもバレバレなのですが、今回のルーティンはCIRQUE DU SOLEILのTOTEMに強いインスピレーションを受けています。自分はTOTEMがとても好きで、お台場に三回見に行きましたし、2016年にはTOTEMの別の楽曲でペアルーティンを作ったりしました。TOTEMと使用楽曲の演目ロシアンバーで感じた「進化」「空への憧れ」「重力からの解放」、これらをディアポロでどう表現できるかと考えながらルーティンを作りました。あくまで競技会のためのルーティンなので見ている人に伝わることはありませんが、どんなルーティンを作る時でもこういうこだわりが大事だと思っています。決勝ではたくさんの暖かい応援のおかげで楽しく演技出来ました。ジャグリングを通じてお世話になった方々にはとても感謝しています。これからもよろしくお願いします。



若きディアボロの探求者は何をどの
ように考えて、今のスタイルを確立
したのか。

JJFについて

運営、進行がきちんとしています
よね。他のフェスティバルだとスケ
ジュールにこだわったりせず、適当
にやっていたりするんですが。
ジャグリングで言えば、皿回しが
印象的でした。ヨーロッパで皿回
しのジャグラをすごいと思ったこ
とはありません。でも今回のJJF
ではすごく刺激を受けました。皿の
周囲に重りをつけたり、普通よりも
太い棒を使ったりと、工夫もしてい
て。

う程度には興味が湧きました。
これまでの経歴
10歳の時に学校にサーカス団が来
て、ジャグリングなどを教えてくれ
ました。
その時一番衝撃的だったのがディ
アボロだったんです。エレベ
ーター、スティックグランドとい
った技に感動して。まさかディアボロ
を使ってそんなことができると思
わなかったんですよ。

それから僕はディアボロを練習し
続けて、ちよつとずつ技を増やし
ていきました。学校の同級生の間で
は、僕がディアボロばかり練習し
ていたせいで、ディアボロがちよつ
としたブームになったりして。生徒
の半分ぐらいがディアボロをやっ
ていました。でもそのうち、危ないか
ら、という理由で先生に止められ
りもしたんですけど…(笑)
4年後に、また同じサーカス団が
学校に来ました。そこで3ディアボ
ロや、他のいろんな技ができるよう
になっているのを見せました。彼ら
はとてもびっくりして、「せっか
くなら、夏のツアーに参加してみない
か？」と言われて。
その申し出を喜んで受けたんです
が、とはいえ最初のショーでは振
り付けはサーカス団の人にやって
もらいました。16、7歳ごろまでは、
どちらかというと昔ながらのタイ
プのショーをしていました。18歳まで
サーカスに関する正式な教育を受け
たことはありません。
その頃自分がディアボロに関し
て参考にしていったものといえば、
初期のインターネットの映像と、
VHS。ディアボリストで言えば、
トニー・フレバークが僕が参考にし
ていたメインの人でしたね。あとは
「ディアボロジ」。

サーカス学校で受けた衝撃

そのあと、18歳でフランスのサー
カス学校に入ったのは、いろいろな
意味で転機でした。
まず、僕が最初に見たジャグラ
の友達の演技が、ステージ上で裸に
なる、というもので。
それまで伝統的なサーカスショ
ーを見慣れていた僕にとって、これは
衝撃的でしたよ。
まずもってなぜジャグリングをす
るのに裸にならなきゃいけないの
か、ということが納得いかないし。
でもそんなことを発端に、徐々に自

分自身でもジャグリングについて深
く考えるようになっていきました。
学校には当時、ゲスト講師として
ステファン・シング、エリック・ロ
ンジュケル、カルロス・ムニョスな
どの名だたるジャグラ達に来てい
ました。
特にエリックに出会ったことは大
きいですね。
学校の2年目でワークショップを
してくれたんですが、その時点か
ら、それまでのトラディショナルな
スタイルを捨てることになりました。
彼が教えてくれたことを基にし
て、ディアボロをバウンドさせる、
というのを、自分の「ジャグリン
グの語りかた」の基礎にすることに
しました。
エリックは、「ジャグリングの語

りかた」という考えや、コンセプト
をどういう風に発展させていったら
いいのか、ということについて丁寧
に教えてくれた人です。彼との交流
は長くて、フランスのサーカス学校
を出てからも、4、5ヶ月に一回く
らいビデオを送って、フィードバ
ックをもらっていましたね。
目標にできたジャグラ
ワークショップを直接受けたこと
はないのですが、エリックと同じデ
フラクトのギヨーム・マルティネ
からも大きな影響を受けていると思
います。
彼と初めて会ったのは、まだど
うかというトラディショナルな
ディアボロをやっていたころ。僕の
演技を見てくれたあと、なぜそのよ
うな演技を作ったのか、なぜあそ



ゲストインタビュー

ギヨーム・カルポヴィッチ

Guillaume Karpowicz

1993年生まれ。フランス出身。13年前に独学でディアボロを始め、ボルドーのサーカ
ス学校で2年間学び、その後スウェーデンのサーカス学校DOCHに入学。2016年の6
月にDOCHを卒業した。2017年にはサーカスアーティストのコンテスト、Cirque de
Demainにて審査員特別賞を受賞する。現在はベルリンに拠点を移し、ヨーロッパ各
地でパフォーマンスを行なっている。～JJF2017Webサイトより～



ゲスト：Guillaume Karpowicz (ギヨーム・カルポヴィッチ) 氏 聞き手：JJF 担当理事 中村 亮介、海外ゲストメイン担当 西川 正樹、編集部 たまきゆかり 編集協力 青木直哉氏

てきたと言えるのは、やっぱりディアポロですね。

えてしてディアポリストは、他の道具に乗り換えてしまうことが多いです。たとえばエリック・ロンジュケル。ジェイコブ・シャープや僕の旧友エディエン・シヨズィだつて、ディアポロをやめたわけではないものの、みんなボールをやります。フランス人のボクダンも。

そんな中で僕は、ディアポロにこだわり続けていくことが自分自身への挑戦なんだと思っています。やる気を保つのは、とても大変なことです。

長く続けていると、二つの考え方が出てきます。

ひとつは、「僕は今まで、もうディアポロを嫌になるくらい練習してきた。だからもうこれ以上新しいことは見つからないだろう」という考え。

もうひとつは、「僕は長いことディアポロを練習してきた。だから、あともう少しだけ練習すれば、ブレイクスルーがあるかもしれない」という考え。

僕にとつてのブレイクスルーとは、道具の斬新な使い方を見つける、ということ。それは、ひとつのことを信じて、本当に長くやっていると見つからないものです。

ヨーロッパのサーカス学校の生徒は、複数の分野の芸を身につけるのが普通です。でも僕はひとつの分野に特化するのが好き。自分にとって一番得意なこととは何なのかをわかってやっている、という感じが好きなんです。

そうそう、長く続ける、ということならそういえば、「ジャグリングで一番いいものが出来るのは30代の頃だ」ともジェイは言っていました。ジェイもエリックも、ギョームも、みんな30代です。

ふたつの練習方法について

僕の具体的な練習方法ですが、大きく分けて2種類あります。

ひとつは即興。音楽に合わせて実際に動いてみたり、想像に任せているようなアイデアを出したり。

もうひとつは、コンセプトを意識して決めて取り組むやり方です。



であれをやったのか、というようなことを、次々と質問してきました。要するに、僕のジャグリングについての考え方を試してきました。

そういうことを通して、より自分のジャグリングに意識的になっていきました。ジャグリングにおける気の配り方とか、そのプレゼンテーションの仕方、そもそも何をプレゼンテーションするのか、ということにおいて、僕はギョームを一人の目標にしています。でも、僕も進化しているつもりでも、彼の進化はそれよりもっと早くて、全然追いつけないですけれど…。

サーカス学校について

2013年からは、スウェーデンのサーカス学校、DOCHに入りました。そこでジェイ・ギリガンやベン・リヒターといった師に会いました。

ジェイは、とてもいい先生ですよ。

DOCHに在学している最中、ずっと自分のモデルのような存在であり続けてきました。必ずしも彼と同じスタイルのジャグリングをしたわけではないですが、ジャグリングについての考えの面では影響をだいぶ受けています。なんせ3年間も一緒にいたので、大きな影響を受けていることは否めません。ジェイはジャグリングに関する彼の考えを明確に説明するのがとてもうまいです。他の人だったらうまく説明できないような概念やアイデアを、適切な言葉や説明方法を使ってはっきりと伝えてくれます。そういう点で、ジャグリングに関する彼の考え

前者は、どちらかというと身体意識、道具と身体との具体的な関係などを探るための方法です。音楽に合わせて動いてみる、あるいは分析的に考える。

ジャグリングのことを考えるのが好きなので、手近にあるものでジャグリングができないか考えたりもします。このカープでディアポロを転がせそうだな、とか。

でも頭の中で考えたことというのは、だいたいうまくいかない（笑）。ただ上手くいくと、とても気持ちがいい。

「Reductionism」は、絵を描いて考えた

「Reductionism」というビデオの中でやった技は、8割方が、何気なく音楽を聴きながらスティックとディアポロの絵を描いて考えたことです。絵の中で、スティックを足してみたり、あるいはスティックをなくしてみたり、いろいろと試しました。

その中でたとえば、フックをひもにかけて、その上にもう一つディアポロを乗せたらどうだろう、というのを考えていたんです。でもディアポロが落ちてしまう、というのがわかって、じゃあフックではなくて、ひもの輪っかを使ったらどうだろう、という発想が浮かんで。

そういうプロセスの繰り返しで生まれたものを、ビデオに詰め込んでいます。

ひとつのテーマをとことん追求すること

方に影響を受けています。

アートから学ぶ

実際僕は今まで、ダンス、オペラ、インスタレーション、サーカス、好きなものも好きではないものも、とにかくたくさん観てきました。

そんな中で、ダンサーはどうやって振り付けを考えてきたのか、音楽家はどうかやって音楽を作ってきたのか、など、参考になる歴史がたくさんあるんですよ。

ジャグリングでもそれと同じように考えることができるかもしれないし、まあもちろんそうでもないかもしれない。

何にせよ、さまざまな他の芸術分野に触れて刺激を受けるのは、有益なことだと思います。ジャグリングはまだまだ若い分野ですけれど。

後者は、たとえばチャンピオンシップに出場していたクロ助さんのように、クロスアームで何ができるかを追求する、と決めたら、それをとことん追求するということです。これは、おそらく多くの人が一度は試すやり方だと思っんです。ただ、だいたいみんな途中でやめてしまいます。もしかしたら受け入れられないかもしれない、時間の無駄かもしれない、ということが怖いということもあると思います。

でも本当に力のあることは、ひとつのテーマを決めて、遠くまで行ってみないことには実現することができません。クロ助さんも、演技を見たら、クロスアームというひとつのテーマは、とても長く長い時間をかけたということが、見ただけで分かるじゃないですか。

ひとつのことを追求していくに



その他のジャグリングについて

他の道具、ということ言えば、ボールジャグリングもやります。ちよつとずつ、いろんな道具をやりますね。

一つのことにあまりに集中しすぎると、息苦しくなってしまう時があるの、たまに他の道具に触れるのはいいことだと思います。絵を描いたり、電子音楽製作を試した時期もありました。最近、本もよく読むようになりました。前は嫌だったのに。あとは、昔からやっているチェス。子供のころ、大会に出るぐらいまでハマっていたんですが、最近また始めました。

ディアポロに「こだわり続ける」ことの難しさ

でも、今までの人生でずっと続け

は、二つのことが必要です。

まずいくつもあるコンセプトの中から、どれがよさそうか、ということを見抜く直感。

次にそのコンセプトと自分の直感を信じ切ること。

周りの評価は怖いですが、感じたことを、自分自身がしっかりと信じていけば、結果的にそれは受け入れられるものだと思います。

そういうことを考えながら、僕は今のスタイルを作ってきました。

日本のジャグラーへのメッセージ

日本のジャグリングは、とてもいい方向に進んでいると思います。これからこのまま続けていくて下さい。20年、30年経って、この進化がどこに行くのか、見るが楽しみです。



ゲストインタビュー

望月ゆうさく

2001年ジャグリングを始める。在学中にメディアアート・プログラミングを学び、ジャグリングやタップダンスとメディアアートを組み合わせた作品を発表。東京藝術大学を修了後、フリーランスとして活動を開始。ジャグリングの中でも、ディアボロを最も得意とし、非常にスピード感のあるパフォーマンスが特徴。またジャグリングを大道芸としてだけではなく、アートとしてとらえ、映像などを使用した実験的なパフォーマンスを行っている。2015年カナダ・ケベックシティで開催された第68回目ジャグリング世界大会で念願の総合優勝を果たし、名実共に世界トップレベルのディアボロプレイヤーとなる。ジャグリングを演芸としてだけではなく、アート、スポーツ、エンターテイメント等の境界を超えた次世代の表現として、確立・展開。”表現をするジャグラー”として独自のスタイルで活動している。～JJF2017Webサイトより～

ゲスト：望月ゆうさく（インタビュー中、（望））聞き手：JJF2017 実行委員長 米屋遊、現地調整チーフ担当 近土弘之、現地調整サブ担当 花田充、編集部 たまきゆかり（インタビュー中、（米）（近）（花）（た））

（望） あー、ウィンドミル（大道芸というテーマで望月さんが出演した映画『windmiller』）ですね。
（近） この人はジャグラーなのか？何なのか？が分からなかったです。
（望） 僕たちジャグラーは、なんとなくジャグリングの中にはアートを性を感じるけど、九州大学の後に東京藝術大学大学院に進学した時、先生にそのことを話したら、「ジャグリングはどこまでいってもただの大道芸だよ。」と言われちゃったんです。
それが悔しいから、コンセプトアルジャグリングというのを始めました。コンセプトアルジャグリングはジャグリングをツールとして、違う世界を見せるということであり、僕はそれを人生かけてやっていきます。
あと、コンセプトアルジャグリングは「コンセプトがありき」なので、僕は既存の音楽はなるべく使わないようにしているんです。
例えば病んでいることを表現しよう、としたときに既存の音楽でやると、そもそも自分の演技のために作られた音楽ではないため、尺であったり間であったり、テンションであったり、曲のイメージであったり

ちよつとずれるんですよね。昔は既存の音楽の方が迫力あって絶対いいだろうと思っていたけれど、レベルが落ちるかもしれないけれど、自分の匂いをわかってくれている人に音楽を作ってもらって、やった方が全然違うジャグリングになるなと思ってからは、なるべく音楽を作ってもらうようにしています。
お手炭（おてすみ）という石炭を投げる演目は、筑豊地方の田川という炭鉱の町で、アートイベントやるから何かジャグリングでやれないかって言われた時に考えたもの。その土地に根ざしたジャグリングを創ってみようと思って、昔石炭を、使える石炭が使えないボタに分ける作業を女の人が炭まみれでやっていたっていう話をベースに、その土地のセメント工場、真っ白の工場の中で白塗りの女装をして、ひたすら石炭をAからBにジャグリングのように投げつつっていうのをやった。あれはお客様を楽しませようとやったわけじゃなくて、ジャグリングをきつかに、石炭とはこういう音がするんだとか、一体これは何なのだろうとか、これは何だろうと考えてもらうためにやったことで、あれはエンタメじゃなくてアートという位置づけなんです。
映画『windmiller』は、映画という媒体の中で、じゃあ俺が、どうジャグリングを展開できるかなと思ってるって感じがするね。
大学の卒業論文も大道芸の論文を書きました。地域とか公共の場で、すごく意味があるとはいえているけど、認知度が低すぎるし、アートと結びつくはずもないし、難しいのはどんなにジャグラーが「これがこう

いう表現でやっています」と言っても、一般の人が見たら、ただ音楽かけて技やっているようにしか見えないうです。共通言語と言う、一般の人がわかる大前提がないから、「すごいね」みたいな感想にしかない。そこをどう乗り越えるかを一生懸命にやっています。エンラもその一つですね。
（花） ところで、ゆうさくさんが考えるプロとアマチュアのの違いってなんですか？
（望） 俺がプロになろうと思ったきっかけはその問いなんです。てのひらさんが使ってくれた1番最初の日に、彼が車の中で「プロとアマチュアのの違いって何だと思う？」って質問をしてくて、俺は静岡ワールドカップとかでプロのオーイっばい見ていたから、「なんかオーイが違います」と色々言いました。
それらてのひらさんは「そうじゃない」と一言。
てのひらさんの答えは「イベントで自分の演技のギャラが5万円だとして、だけどクライアントさんは、ギャラの他にイベント代理店や色々な人たちにもお金を支払うので、自分の演技には十萬円くらいのお金が支払われる。その十萬円ぐらいの価値を、自分の演技で払えるか？さらに「次回もお願します。」って言われるか？それが続けられる人がプロであり、できない人がアマチュアだ、ただそれだけだ。」というものでした。その通りだなあって思いましたね。
単純に自分の演技で食えているか食えてないか。アマチュアがプロフェッショナルかどうかっていうのは、今はそう思っています。

（米） ジャグリングを始めたきっかけからお願いします。
（望） ハイパーヨーヨーを11歳から始めました。13歳の時、大道芸ワールドカップin静岡がきっかけで、ディアボロとジャグリングを始めました。浦和さん（浦和新さん JJF2011チャンピオン）、岩倉さん（岩倉玲さん ヨーヨー世界チャンピオン）、安部さん（大道芸人 Hirokiさん）達と一緒に練習していました。その頃はテクニク重視で、人に見せるためというよりは、他の人に見えないためにやっていたわけですね。
（米） 高校卒業後、福岡の大学に進学して、福岡でもジャグリングを続けたいわけですよね？
（望） そうですね。ただ、ジャグリングをやめようと思っていたので、最初の2年間はタップダンスサークルに入ってタップダンスをやっていました。
（米） ジャグリングをやめようと思ったきっかけは？
（望） 受験勉強の時に、ジャグリングを1回やめないと受からないなと思って、そこで一旦ジャグリングをやめました。
1年半ジャグリングをやめていたから、その間にYouTubeが発達して、一気に周りのレベルが上がって、自分のレベルが下がったのを感じたからです。
今でもYouTubeは基本的には見ないです。特にジャグリングのやつは絶対見ないですね！
（米） またジャグリングをやるようになったきっかけは？
（望） ジャグリングパフォーマンス

もやめようと思っていたのですが、その時にパフォーマンスのてのひらさんと出会い、ジャグリングパフォーマンスとして僕をときどき使ってくれたんです。
そのような形でジャグリングパフォーマンスとして活動しながら、ジャグリングパフォーマンスを続けようかやめようかと、もんもんとしていた時に、当時付き合っていた彼女にフラれたんです。
彼女にフラれたことが原因で、何もする気が起きない日々が続きました、学校にも行きたくないうつな時に、ちよつとだけジャグリングをしていたら無心になれたんです。
その瞬間、「今だったらジャグリングに戻る気がする」と思い、一生懸命ジャグリングの練習を始めました。
その彼女が静岡に住んでいたのも、大道芸ワールドカップin静岡に出て見返してやろうと考えたんですよ。その前段階として、世界大会でしっかりとした演技を作ろうと思つて、IJA2009に出ることを目標にしたのです。
（た） なかなか恋愛事情が入っていたんですね（笑）
（米） IJAに出たのは2009年？
（望） 2009年と2014年と2015年ですね。銅、銀、金と受賞しています。
（近） 僕は望月さんって一体何者なのか全然分かってなくて、僕がジャグリング始めた時、望月さんが石炭を投げっていたんです。
（望） お手炭（おてすみ）ですねー！
（近） あとは映画も撮られていまし

てのひらさんと一緒に初日に「ゆうさくは確かにすごいことやっているんだらうけど、はつきり言って面白くない！」と言われました。FEDCという当時のディアボロの全国大会があって、それで2位になった演技披露していた頃です。
「だつてさー、ボールちよこちよやるよりはさあ、高くあげたり速くやったりする方が、よっぽど面白いやん。ただ技ばっかりやっていても分かんないし。速くやる、低くする、色んなことを歩く。そもそもお客様をしっかりと目で見ているかどうか。ゆうさくは全然できてないよ！何も面白くない。」と、てのひらさんに言われました（笑）。
ちよつとその頃は、それまでに積み上げてきた技術、負けないためにやってきた技術というものが、お客様に伝わらなくて、それによって俺の心もどんどん乱れていって、芸がひねくれ曲がついていった頃だったので、てのひらさんがそのひねくれ曲がつた考えをスパンと断ち切ってくれた気がしましたね。
「まずは舞台上で素になろう、恥ずかしさを捨てよう、そこからすべて始まる。」と思いました。俺のエンターティナーとしての表現活動が始

まったのは、そこからです。
てのひらさんには「プロとは何なのか」、「エンターテイメントとは何なのか」を教わりました。僕は彼のことを師匠だと思っています。
（花） 望月さんは前に「福岡が第二の故郷だ。」みたいなことをおっしゃっていました。その福岡でJJFが開催されると聞いて、どういう心境でしたか？
（望） それはもう、もうね、「俺ゲスト、こいよこいよ！」って。これまでなかったら、俺二度とJJFで演技やらんと思っていた（笑）だから、オファーが来たときはありがたかったです。「やった、きたきたー！何があってもやるー！」と思いました。

（花） ジャグリングの本質について、ゆうさくさんはどういうふうに考えていますか？
（望） ジャグリングの本質、本質という性質は、やっぱり技がつかまとうと思っています。
そもそも一般人ができないことをするからこそすごいものが芸として確立され、ジャグリングというものがここまで発達してきたと考えていま



す。
色んなものが空中を飛びかっ
て、その不安定な状態を維持し続けること
でしかないし、そこには絶対難しい
リスクはないと、それは絶対ジャグ
リングではない。俺は不安定をずつ
と続けることこそ、安定だと思っ
て、それは3・11（の東日本大震
災）があつてからさらに思うんです
けど。安定だと言われていたものが
この世に存在しないと思うからこ
そ、不安定な状態をずつと維持し続
けて努力していた方が、逆に安定す
るというか…。

にあるじゃないですか。そういう
ものというか。俺のパフォーマンス
も自分がここにいて何かやること
によつて、どこまでオーラが飛んで
行つて、どこまで一体感の空間がど
うできるかというか。でも不安定が
維持し続けることをやる、ですね。
（近）ディアポロの練習をやめたことか
ディアポロの練習をやめたことか
ありますか？その時、別の道具に
行つたりしました？
（望）あります。タップがそうだと
思います。
（近）ジャグリングじゃなくてタッ
プ？
（望）もともとボールがギリギリア
ポールまでできていて、ディアポロ
ができて、デビルスティックは1つ
しかできなくて、シガーはやってい
なくて、クラブはたつてはできない
んです。
僕は大道芸ワールドカップin静岡
を見てから、1つの道具をやる人にな
りたくて、あとはダンスができる

ようになりたかつたんです。
ジャグリングで伸び悩んでいた頃
に、他の道具に行こうとせず、タッ
プをやろうとしたのは、そういう考
えがあつたからでしょうね。
九州大学にジャグリングサークルが
あることは知っていたけど、そこに
行かなかつたのは、タップダンスを
やりたかつたからなんです。
タップダンスは、自分でリズムとい
う概念を作ることができる。それは
ジャグリングの動きからくるリズム
とは違うものです。
視覚的にディアポロの動きをメモ
ディーとして考えた時に、「どうい
う風にしたら一つの曲ができるんだ
ろう」みたいな発想ができるようにな
つたのは、タップのおかげだと思
うんです。
その時にジャグリング以外のことも
すべきだと思つた。ジャグリング以
外のことがジャグリングに還元でき
る方法が必ずあると思います。（陶
器のディアポロを差しながら）陶芸
もそうだし。俺が究極的に求めている
のはオリジナルティなんです。
どこまで行つても、技やつてもうま
い人が出てきたらすぐに抜かれちゃ
うし、それで自分が10何年やつてき
たことが失われちゃうのは、これほ
ど悲しい事はないと思います。
だからこそ、俺にしかできない考え
方、哲学、音楽性、空間性をやり
たいと思うと、ジャグリングだけを
やっていられないなあと思います
ね。

俺らしさが出てきた。
音を聞かせる瞬間を作
ろうとか、ディアポロ
の回転音をあえて聞か
せようとか。技を見せ
ようとしすぎないところ
とかは、ダンスとか
陶芸とかアートとかエ
ンターテインメント映
画、色んな映像を色々
やつたからこそ思うこ
とでしょうね。
（た）作品のメインを
ディアポロで作ってい
らっしゃいますが、普
段の練習って何をされ
ているんですか。
（望）普段の練習は地
道に4ディアの練習と
かをしています。演出とか表現
だつて言つても、技がすごくないと
ジャグラー達は尊敬してくれないで
すしね。
3ディアが苦手なんで、どんなに凄
い技を3ディアでできなくても、4
ディアができれば、ぱつと見て凄
く見える。だから4ディアをひたすら
やつています。
あとは創作活動というか、公園の中
で音楽小さくかけながら、遠くに
座っているベンチの人を振り向かせ
るにはどうしたらいいか、というの
を考えながら、ひたすら一個のディ
アをやり続けます。
もし後ろに人がいたら、今見えてい
るかな、どうなのかなつていう、
イメージを飛ばしながらディアポロ
をやつたり、逆に手元だけで小さく
やつたりとかしていますね。だから
基礎練はもろろんやりますけど、
ディアポロ使つて実験しまくつてい



ます。

（た）その周りをひきつける練習の
中で、実際のパフォーマンスに活
きてくる動きが生まれたつて瞬間が
あるんですね。
（望）めちゃめちゃありますね。そ
の積み重ねだと思えます。どんなに
大舞台でも、意識の飛ばし方が大事
ですし、これはすごく難しいです。
ジャグラーにはちよつと分からない
かもかもしれないけど、意識の飛ばし
方があつて、外側に行くような感じ
でいく時と、内側に行くような感じ
な動作で行く時があつて、ゲストス
テージで披露する予定の光のやつと
かは内側に入つていくような動作の
感じなんです。外側に開く感じで
やる瞬間はもろろろあるけど、押し
引きをすることによつて、お客さん
つて引き込まれていくんです。
あと、もう一つ大事なことは、もの
を見ないで自由にできるようになる



やるときに、モノトーンのほうがい
いとか。企業のカラーツであるん
ですよ、コカ・コーラは赤だつたり、
ペプシは青だつたり。そうしたとき
にパッティングしちゃうとか。赤の
イメージは燃える炎だつたり、かわ
いイイイメージだつたりするし、青は
クールだつたりもするし、きれい
だつたりもするし。それまで意識し
て作品を作るようになってほしい
です。
（た）ドキッ！
（望）それは作れなくてもいいんで
すよ、見やすいだけでも、それはも
ちろんそのコンセプトでもいいと思
うんだけど、そうじゃなくてそれだ
けじゃない見方もありますよ、とい
うのを提示するだけ。これやつてな
いからダメだよ、と言うんじゃない
で、1つの見方と
して提示はしま
す。僕は過去に
ディアポロの競技
で審査員をやると
きに、そこまで意
識している子は分
かつたから。女の
子が多いですけど
ね、色を考えるつ
ていうのは。そう
いう子にはすく
点数をあげます。
分かつているなど
思つて、それで発
展するとJJF
チャンピオンシッ
プの予選ビデオ
とかは、本当に
色は気をつけた
方がいいと思

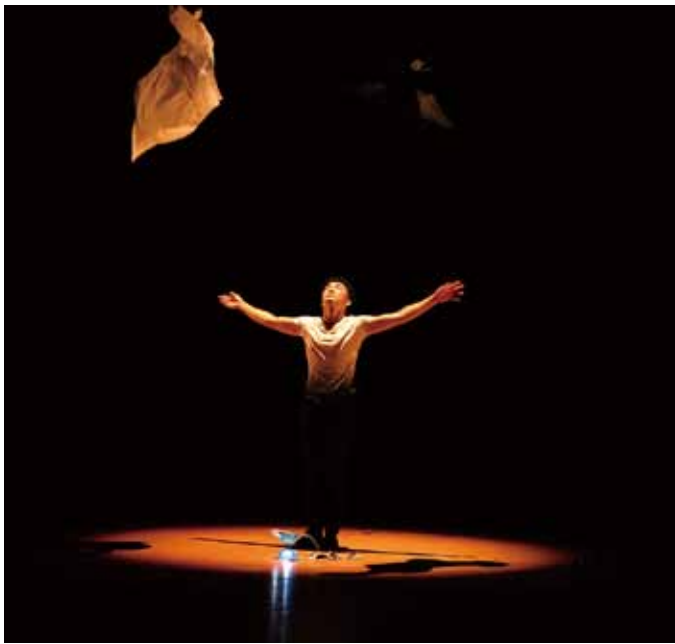
俺らしさが出てきた。
音を聞かせる瞬間を作
ろうとか、ディアポロ
の回転音をあえて聞か
せようとか。技を見せ
ようとしすぎないところ
とかは、ダンスとか
陶芸とかアートとかエ
ンターテインメント映
画、色んな映像を色々
やつたからこそ思うこ
とでしょうね。
（た）作品のメインを
ディアポロで作ってい
らっしゃいますが、普
段の練習って何をされ
ているんですか。
（望）普段の練習は地
道に4ディアの練習と
かをしています。演出とか表現
だつて言つても、技がすごくないと
ジャグラー達は尊敬してくれないで
すしね。
3ディアが苦手なんで、どんなに凄
い技を3ディアでできなくても、4
ディアができれば、ぱつと見て凄
く見える。だから4ディアをひたすら
やつています。
あとは創作活動というか、公園の中
で音楽小さくかけながら、遠くに
座っているベンチの人を振り向かせ
るにはどうしたらいいか、というの
を考えながら、ひたすら一個のディ
アをやり続けます。
もし後ろに人がいたら、今見えてい
るかな、どうなのかなつていう、
イメージを飛ばしながらディアポロ
をやつたり、逆に手元だけで小さく
やつたりとかしていますね。だから
基礎練はもろろろんやりますけど、
ディアポロ使つて実験しまくつてい

ます。
（た）その周りをひきつける練習の
中で、実際のパフォーマンスに活
きてくる動きが生まれたつて瞬間が
あるんですね。
（望）めちゃめちゃありますね。そ
の積み重ねだと思えます。どんなに
大舞台でも、意識の飛ばし方が大事
ですし、これはすごく難しいです。
ジャグラーにはちよつと分からない
かもかもしれないけど、意識の飛ばし
方があつて、外側に行くような感じ
でいく時と、内側に行くような感じ
な動作で行く時があつて、ゲストス
テージで披露する予定の光のやつと
かは内側に入つていくような動作の
感じなんです。外側に開く感じで
やる瞬間はもろろろあるけど、押し
引きをすることによつて、お客さん
つて引き込まれていくんです。
あと、もう一つ大事なことは、もの
を見ないで自由にできるようになる

ことだと思ひます。
（た）ものを見ないで自由にできる
ようになる！
（望）はい、もちろん技のレベルは
下がるけれど、それができていること
によつて、自由度がもつと広がつて。
（上下左右を見る動き）こうしなが
らできるか、とか、こうしながらで
きるか、とか。（体を捻る）姿勢を
こうやりながらできるか、とかです
ね。
（た）パフォーマンスを拝見して、
ディアポロをしながら自由に動かれ
ているなという印象がすごくあつた
ので、普段の練習では、技名のある
新しい技を練習することは、あまり
されないのかなつて勝手に思つてい
ました。
（望）僕はそもそもYouTube
見ないんで、ここ1、2年くらい
は、他の人の技を見る瞬間は競技会
とか、JJFみたいな瞬間しかなく、
（YouTube）を見なくて
も）それでいいかな？と思う瞬間も
あるんですけど、それをやると膨大
な時間を取られちゃうんです。
だつたら、「サラリーマンやりま
す、スーツ着ます、このスーツにあ
うディアポロの動きってなんだろ
う」つて考えます。柔らかい動きつ
て何か違うよなあ、とか。カクカク
カクつて方がかっこいいな、と
か。速いほうがいい、日本刀のよう
に鋭い方がいいつていうイメージ
持つて、じゃあその動きってどうし
鏡を見ながらやる練習が多いです
ね。優しさを表現するのはどうした
らいいんだろう、みたいな。ゲスト
ステージで披露する光のやつで、ボ
ンボン飛ばすとか、あれ柔らかいで

すよね。そういうような発想から、
技という動きを作るようにしてい
ます。
（た）この技をやりたから、この
動きとやるというよりは、逆なん
です。
（望）逆ですね。もちろん4ディア
とかは、この技をやりたから練習
する技なんですけど、4ミルもやり
たいから、4ディアのハイトスから
ミルに落とす練習はよくやっていま
す。
（た）普段どのような練習をされて
いるのか、少しだけその様子が垣間
見えたかなという感じがします。
（望）ゲストワークシヨップでは動
きから技を作る順序や、道具の色と
いうのがすごく大事だよ、というこ
とを話します。デザイナーの人から
聞くと、やっぱり企業イベントとか

やるときに、モノトーンのほうがい
いとか。企業のカラーツであるん
ですよ、コカ・コーラは赤だつたり、
ペプシは青だつたり。そうしたとき
にパッティングしちゃうとか。赤の
イメージは燃える炎だつたり、かわ
いイイイメージだつたりするし、青は
クールだつたりもするし、きれい
だつたりもするし。それまで意識し
て作品を作るようになってほしい
です。
（た）ドキッ！
（望）それは作れなくてもいいんで
すよ、見やすいだけでも、それはも
ちろんそのコンセプトでもいいと思
うんだけど、そうじゃなくてそれだ
けじゃない見方もありますよ、とい
うのを提示するだけ。これやつてな
いからダメだよ、と言うんじゃない
で、1つの見方と
して提示はしま
す。僕は過去に
ディアポロの競技
で審査員をやると
きに、そこまで意
識している子は分
かつたから。女の
子が多いですけど
ね、色を考えるつ
ていうのは。そう
いう子にはすく
点数をあげます。
分かつているなど
思つて、それで発
展するとJJF
チャンピオンシッ
プの予選ビデオ
とかは、本当に
色は気をつけた
方がいいと思



（望）僕はそもそもYouTube
見ないんで、ここ1、2年くらい
は、他の人の技を見る瞬間は競技会
とか、JJFみたいな瞬間しかなく、
（YouTube）を見なくて
も）それでいいかな？と思う瞬間も
あるんですけど、それをやると膨大
な時間を取られちゃうんです。
だつたら、「サラリーマンやりま
す、スーツ着ます、このスーツにあ
うディアポロの動きってなんだろ
う」つて考えます。柔らかい動きつ
て何か違うよなあ、とか。カクカク
カクつて方がかっこいいな、と
か。速いほうがいい、日本刀のよう
に鋭い方がいいつていうイメージ
持つて、じゃあその動きってどうし
鏡を見ながらやる練習が多いです
ね。優しさを表現するのはどうした
らいいんだろう、みたいな。ゲスト
ステージで披露する光のやつで、ボ
ンボン飛ばすとか、あれ柔らかいで



（望）僕は過去に
ディアポロの競技
で審査員をやると
きに、そこまで意
識している子は分
かつたから。女の
子が多いですけど
ね、色を考えるつ
ていうのは。そう
いう子にはすく
点数をあげます。
分かつているなど
思つて、それで発
展するとJJF
チャンピオンシッ
プの予選ビデオ
とかは、本当に
色は気をつけた
方がいいと思

ます。背景が見にくかつたら、そも
そもビデオでジャグリングが見えな
いから、あれこそ色は本当に気をつ
けたほうがいいですよ。例えばせめ
て背景との差をつけるとかですね。
あとは後ろで車がいっぱい通つて
いるところでやつたら、車の方に目
がいつちやつて、ジャグリングの方
に目がいけないから、せめて背景は固
定するとか。場所がないのも分かる
し、時間がないのも分かるんですけど、
JJFに出られる確率が格段に上が
ると僕は思います。
（米）最後にぜひジャグラーに一言
を。
（望）僕が常に思っているのは、
ジャグリングは、楽しむためのもの
だと思つているから、楽しむことを
忘れないでほしい。戦うためである
かもしれないけど、発想を広げて楽
しんでほしいと僕は願っています。
でも、今日のゲストステージのサラ
リーマンの演目は間なんですけど
ね。楽しくやり続けた結果、自分が
病んじやつたから。笑顔でいること
が疲れた時期に作つたやつ。みんな
ドン引きすると思います。（笑）
*インタビューはゲストステージ開
催前に収録
（米）これでインタビューを終わ
りたいと思います。皆さんありがと
うございました。■

ゲストインタビュー

智士



世界の豪華客船でショーを行うクルーズパフォーマー。自身で演出を行うLEDプログラムショーや、 大きさの違うボールを操るジャグリングなど幅広いレパートリーを持つ。 世界各地、言葉の伝わらない観客でさえも盛り上げるダイナミックなショーをお楽しみください。

2012年IJA個人総合部門優勝 2014年シルクドゥソレイユ登録メンバー 9ボールジャグリング日本記録保持者 〜JJF2017Webサイトより〜

ゲスト：智士（インタビュー中、〈智〉） 聞き手：JJF2017 実行委員長 米屋遊、現地調整チーフ担当 近土拡之、現地調整サブ担当 花田充（インタビュー中、〈米〉） 〈近〉 〈花〉

ういうバタフライのきれいさとかはそこから学びました。

（米）大学の時はコンタクトから入ったの？トスのボールは全然しなかったの？

（智）トスのボールは全然ですよ。1年経ってミルズメスができるかどうかです。でも僕クラブやっていましたですよ、ボールできないのに。

（米）なんで？（笑）

（智）マリオベルセルクとかシユベヒトみて、クラブはウケるし、カッコいいからやりたいと思いました。あと、クリスタルって結構ショーになるまで早いじゃないですか。なので、クリスタルは1年生としては、割とそこそこのレベルになったんですよ。何より僕が飽きるんで、そこで並行してクラブだったんです。だから1年生の4月に入学して1年経つぐらいに、5クラブが20キャッチぐらいはできました。でも5ボールはできないしミルズメスしかできないみたいな（笑）

（米）なんでその人がトスのボールでIJAに行くかだよな。大学2年生くらいときには別にそんなにトスボールをしったりはせず？

（智）2年のゴールデンウィークくらいかな？森田智博さんが小倉大道芸フェスティバルが何かに来たんですよ。それで初めて森田さんのボールを見て、ボールって凄いいじゃないって思ったんです。めっちゃ感動して、その日からボールジャグラーになりました。予想以上にボールであるなにウケるショーができるんだと思って、それからボールをやるようになりました。そこからヴィクトルキー見たり、ブラディック見たり、有名どころをおさえるようになって、森田さん風なショーが作りたいなってことで、ここまでできています。

（米）IJAに出たときっていろいろいくつだったの？

（智）大学卒業して1年か2年後くらいです。ボールを始めて約5年かな。だから自分でもびっくりですね。そもそも、その年にJJF出ようと思っていたんですよ。ただ、スケジュールの都合上、どうしても先にIJAがあるじゃないですか。そこでもって（望月ゆうさく氏に勧められたんですよ。「とりあえずIJA出したほうがいいよ」って。それで出したら予選を通して、本戦もあれよ、あれよという間に通った。

何か面白いのがすぐラッキーだったんですよ。例えば、ボールを変えようと思っていたこととか、記録会に出たこととか、数えると10個くらいラッキーが重なっている。特にラッキーだったのが、もともとIJAってビデオ予選順の演順だったんですけど、僕の参加した年からは、急に全員に優勝の可能性を等しく残すために、演順をくじ引きにしますってなったこと。そこで僕は最後を引いたんですよ。優勝候補と思われるれていたデビットファーマンの演順が1番で、ここかなりアドバンテージになりましたね。うまそうだなと思っていたトス系の被っている感じの人は、そんなに演順の後ろの方に来なかったんですね。それがMAXラッキーでした。だから、本番は誰が優勝するのか、みたいな空気のまま僕の演順まで来て、僕に期待がかかっていたんですよ。しかも、3曲構成のうちの2曲がノミ

スだったから、こいつが最後に持ってくんだ！みたいな空気に会場がなってくれて。結局3曲目で4、5回くらい落とすんですけど、1回そういう空気になったら、頑張れみたいな空気になるじゃないですか。だからその勢いで、審査員が点数付けたらよかったみたい。

あともう1個のラッキーだったことが、ランニングシャワーの演出がバカウケしたこと。IJAは8分が制限時間だったんですけど、僕の通常のショーは5分位で終わるから、何とか力サ増したくて、ランニングシャワーだけでやる構成を新しく加えました。アメリカ人が好きなものを考えて、パロディみたいな、コメディみたいなのが好きかなと思って、ジョーグリングになぞらえた演出にしたんです。ランニングシューズに履き替えて、ひたすら運動会みたいな曲でランニングシャワーはするみたいな演出を予定していました。そしたら、その時に一緒にIJAへ行った先輩が、使わないジョーグリングTシャツのゼッケンを持っていて、それをもらって衣装の下に着て、これ脱いだ後にジョーグリングしたほうがいいってなって思っで、急遽その演出を追加したらそれがバカウケして！さらに会場全体が盛り上がりましたね。

ショー最後の9ボールも決まればラッキーくらいだったんですけど、2回失敗して、3回目に最後キヤッチで若干ぼろっと落とすんですけど、許してやろうみたいなレベルには決まっただけ。そんな雰囲気であつたのがラッキーでした。

（米）その年にIJAへ一緒に行ったんだよね。

（智）そうでした。IJAは当初、僕の中では3年計画でした。実力を冷静に見て、運が良くて3位っていう分析だったの。その翌年に2位か1位狙って、その次の年に1位にはなるっていうスパンで考えたので、色々運が良すぎて、1位とっちゃって。だからJJF出場はキャンセルしました。僕は仕事に使うために、箔が欲しかっただけなんで、世界一とったら日本一は必要なくて、JJFにこだわりはなかったんですよ。IJAはそんな感じですね。

（米）もともとプロのショーマンになるためにいるのやっていた感じ？

（智）ももとはアマチュアでもいからショーをうまくなりたかっただけなんです。大学2、3年の時に、確か小倉大道芸フェスにビルエットっていう学生枠で出たことがあるんですよ。その時に、ほぼソロでやったんですよ。そこで結構ウケて、投げ銭もいたっていて、ショーやって楽しくて、それにお金になるんだっတာいいなと思って。大学2年後半とか3年とかになると、将来の事とか就職とかを考えると、その時プロかなと思って。大学生はそこから30分のショーができるように練習していました。だからディアボ口始めて、後はコンタクトフープみたいな掴みの芸みたいことをやって。だから僕はコンテストに全く興味なくて、IJAもとの気は無いんですよ。ジャグラーのマニアックな技とか興味がないんです。だから今回、JJFのゲストステージとかで5シャワーの足と下とかウケてくれるんですけど、僕は別にあれ全

然好きじゃなくて。今日はこういうお客さんだから、こういうのが好きなんだしよってっていう感じで、ショーでウケるのが僕の中での一番の楽しみなんです。だからJJFのチャンピオンシップもすごいんですけど、やりたいとは思わないっていうか。練習場ですごくいろんな難しい技とか、マニアックな技があつて面白いと思うんですけど、それは目指すところとは違うんですよ。それよりきれいな、ショーマンシップのあるショーとかを見た方が、感動するし。だからもうちょっとJJFでも、そういう人が増えて欲しいなって思いますね。ショーとしてそのままお金になる、ものになるっていうか、そういうショー性のあるものが競い合つて欲しいなと思います。勝手な意見ですけどね（笑）

（米）一御意見としてね。ありがとうございます。

（近）智士さんの凄いところはジャグリングだけじゃなくて、遊びの方にも結構全力なんです。僕は智士さんのサークルの後輩なんですけど、僕が大学生の頃はジャグリングの先輩というよりは、お笑いクイズとかゲームとか後輩思いの先輩っていう感じだったんです。だからジャグリング以外の凄い所を、インタビューで引き出してきたいんですけど、じゃあ学生時代1番やったゲームってなんですか？

（智）ゲーム？（笑）学生時代に一番やったのはモンハンじゃない？

（近）じゃあメインで使っていた武器は？

（智）ランス！

（米）まずジャグリングを始めたきっかけは？

（智）大学から始めました。もともと中学校からマジックに興味で高校の文化祭とかで、ちょっとステイジみたいにマジックやっていたんですよ。それをきっかけにパフォーマーに興味があつて、大学でやりたいというサークルがある大学にしようと思って、九大のマジックサークルと九工大のジャグリングサークルが候補にありました。マジックしたいから九大を目指したんですけど落ちたので、滑り止めの九工大に受かったの、大道芸パフォーマーンスサークルだし、ホームページにマジックって書いてあったんで、マジシャンもいるだろうと思って入部しました。ただ、実際は全員ジャグラーで、演目をたくさん書いたほうがきつと来るだろうみたいな感じで、マジックをやっていた人が誰もいないのにホームページに書いていたらしいです。騙されて入ったけど、しょうがないからジャグリングを始めたのがきっかけです。

（米）マジックっていうのはステイジ？

（智）マジックはコインとカードを使ったクロースアップです。高校の時に文化祭でやっていたのも、ステイジじゃなくてクロースアップです。ステイジ経験はほぼないです。でも小学校の時に、けん玉が流行っている学校で、そういう体を使って覚えるのが昔から好きで、ジャグリングもそんな感じで覚えていきました。

（米）じゃあ大学に入ってサークルに入ったときは、一切ジャグリング

ができなかった感じ？

（智）でもデビルスティック持っていたんですよ、パチモンの。アイドリングだけできました。プロペラが2回転くらいできるような状態でした。

（米）じゃあトスのボールは、一切やったことがない感じ？

（智）ないですね。

（米）じゃあ大学の間にジャグリングにのめり込んだというの？

（智）そうですね。なんだかんだ楽しみました。マジックは一切やらなくなつて、ずっとジャグリングばかりやっていました。僕は1年の時からジャグリングをショーにすることを考えていたんで、人前で見せるときに、ウケるかどうかで道具を選んでいたので。当時、九州でコンタクトジャグラーが全然いなかったんですけど、僕は動画で明らかにクリスタルのアイソレリーションが一番ウケると思ったので、迷うことなくそれを選びました。教えてくれる人もいなくて、独学でYouTubeとか見て練習していました。

（米）YouTubeとかで見ているコンタクトジャグラーって？

（智）コンタクトジャグラーはオムツって人を見ていました。ただその人のコンタクトが好きでこの人のコンタクトがやばい！って見ていた人はいないですね。当時はアマチュアとかがちょっといて、ストリートとかの人も含めて、かいつまんで見てっていう感じです。だからナランハに売っている教則DVDを見て勉強しました。すごく昔からあるビデオからの時代のやつですね。手のひら全体を使ったほうがいいとか、そ



(笑)

(花) どうしてショーでデカボールを使うんですか？

(智) これはねー、色々あるんだけど。まずJ Aで優勝した時は普通の70ミリのクロマイトロシアン使っていたんだけど、それだとサイズが小さいんだよね。僕も大学卒業して、いきなり頭がプロにはならないから、分からなかったこともあるんだけど、ボールが小さいと一般人に伝わらないんだよね。ジャグラーにとつては、そうはいうけど一般人でも分かるよね？みたいな感じだと思ってくれど、実際は分からないんだよ。ワークショッブでも言ったけど、一般人って遠目で薄目に見るとか、スマートフォンで撮った小さい画面でも見えたら見るとかしかないから。例えばボールがなくても、ジャグラーは手のフリだけでミルズメスって分かるけど、一般人とかは分からないじゃん。それで認識が遅れるから、思っている以上に全然見えてないんだよね。それを自覚して、普通のボールじゃまずいなど思った時に、RADFACTORの矢部さんに薦められた。ただデカボールってちょとコメディっぽいし、下手するとピエロっぽいから、自分のキャラじゃないかと思っていたんだけど、日本でやる人いないからやってみた。ナンバーズの何かがウケるかっていうと、数が多いからすごいとかじゃなくて、空中を占める面積とかなんだよね。だから、たくさんある感っていうのを道具がデカイとすぐ出せるわけ。やっぱりジャグリングってものの数が増える

(近) ランスですか！
(智) 人が使わない武器だから。
(近) あ、そういうところにもこだわりが。
(智) そうそう。基本的に何をやっていても人がやらないことやりたい。一番嫌いなのが、僕じゃなくていつていう事はしたくない。例えば、パソコンで何かを管理するとか清掃員とか、その仕事を馬鹿にするわけじゃないけど、僕はそこにモチベーションがわかない。僕じゃないといけないものがやりたくて、そういうのはやっぱりパフォーマーだし、代替可能なものは絶対だめ。だから、そういうゲームでも何でも自分ならではの戦略を立てたいし、僕じゃないといけないような何かをやりたいわけ。それを感じられなかったらやめるし。
(近) 深いっすね。
(智) 深いって言いただけやろ

の狙った通りに思い切ってやっていいたいと思います。僕も結局、船の仕事も英語がわかるようになったから、自分で申し込めるようになって、海外の人相手のショーも全然言葉通じなくても、経験値を積んでいたから、そんなに緊張もせずに、むしろそっちの方が得意っていうくらいでショーができました。だから、その後も船のショーで何度も使ってもらえるようになった。だから、みんなの目を気にして、世界チャンピオンになったから変なプライドで、そういうギャラが安いのは受けないって言うていたら、きつと今の僕は全然なかった。だからその辺は良かったなと思えますね。ただやっぱり世界チャンピオンという看板を出すからには、やっぱりいいショーしたいっていうのがあって、向こうでも全然手を抜かず常にMAXでやっていましたね。



クが上がるから、多少投げにくくても数が少ない方がリスクは低いわけ。そういう観点でもデカボールの5ボールはアリだし、多分7ボールと同じくらい見栄えがする確信があったから始めた。
(花) かっこいいですね。
(智) まあビジネス的だよな。だから今回のゲストも、それがハマったかなって感じ。それがハマらなかったらちょっとウケなかったかもしれない。デカボールやっている人いないから、とりあえずある程度のウケが保証されるから出てもいいのかなと思った。もつとマニアクな技とかショーに入れてもよかったけど、プロとして呼ばれているし、あまり落とす技ガンガンやって、もう一回もう一回やってやるのよね。この辺はチャンピオンシップと棲み分けてきたかな。ちなみに遊ぶ話もちょっとしたいんだけど。
(近) どういうこと聞いてもらいたいか、ちょっと僕を誘導してください！
(智) 誘導(笑) 何事にも全力での方が楽しいよね。遊ぶ中にも勉強できるって話。机の上でも書くだけ勉強じゃないから。ゲームってさ、対人だったりするわけで、テレビゲームみたいなコンピューターでも、もとは人間が作っているわけで、その中にその人の考えが出てくるわけよ。それが面白いんだよな。人が面白い、遊んでると。この人はこういう風に考えるんだとか、こういう言葉回しをするんだっていうのが楽しい。そういうのを観察できるし、それはゆくゆく、お客さんのコントロールとか掴み方につながって

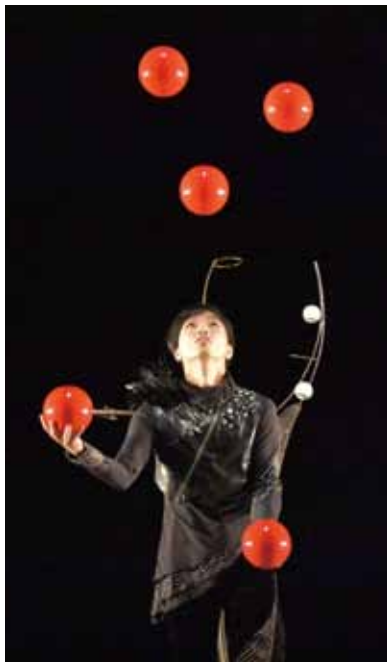
(花) ゲストステージ中にボール置く装置ありますけど、あれにこだわりますか？

(智) めっちゃあります。あれは一般のお客さんに大道芸人と区別してもらうようにするためです。例えば、商業施設のイベントで、ジャグラーですって出たときに、お客さんは僕のことを大道芸人としてみるのと結構あると思うんですよ。それを避けたくて、大道芸人じゃないんだって一目でわかるために、ああいうステージ上の舞台装置をMAXで用意することになっています。お客さんはみんな、ステージ上にスーツケースを置いたら大道芸人だと思っ

てるんですよ。絶対できるんですよ！難しい技1つ覚えるのは諦めて、道具置き1個作るのが良いですよ。その前にまず衣装です。今、今のJ Fチャンピオンシップ見ても雰囲気を作るショーをやる人が多いなと思ったんです。ザ・盛り上げ系みたいな感じのショーをやる人が、ほとんどのいいです。だから、雰囲気ショーをやるなら尚更、衣装と道具置きとか、ステージのモノは考えなきゃいけない。みんなそれをやってないのに、演技の曲がかかってしまうと、その時点で、僕はもう魅力が半分くらいになって観る気を失っちゃう。なんかすごくもったいない、技すごいのに！！っていう感じなんですよな。

(米) ゲームはボードゲーム？テレビゲーム？

(智) 両方ありますね。ボードゲームとかでいうと、人狼とかカタンとか、ドミノとかその辺の有名なところは全部やっていて、家には20、30個くらいボードゲームがあるんですけど、そのぐらい好きで。そういう対人で面白おかしく遊べるやつっていうのが好きだし、結構みんな遊ぶのが好きなんです。だから近土から後輩思いみたいな一言があったんですけど、大学の時とかは新入生が来たら、すごく面白い部っていうのを維持したいから、飲み会で話すこととか1年生に指導する技とか、相当ストックしていて、ちゃんと話のネタを持つといて。変な責任感を感じるんですよ、僕は上級生でジャグリングうまいって思われているし、やっぱり引張っていく責任があると思っていて。ジャグリング界にも僕はそれを持っていて、僕はジャグリングで仕事させてもらっているから、やっぱり次の世代に僕



(米) 何か話を聴くと相手を楽しませたいんだよね。つまらなそうにしているのを見るのが嫌なんじゃないかって。

(智) そうですね。だからJ Fでも、例えば練習場の端っこでぼーっとしてる人とか、見たら話かけてあげたいですし、僕自身にはいつでもどこでも話しかけて欲しい感じですね。みんなと話して質問に答えることが一番みんなのためになるんですよ。そのためにはなるべく練習場にいると思っています。ちょうど来年卒業でプロになりたいんだけどいて、人がいて、僕がアマチュアの頃どれくらいの売り上げで、どういう仕事しててっていうことを、金額も全部出して話をしたくらいです。あ、マレーシアの話していいですか？

(米) いいよ。

(智) 僕、マレーシアで3ヶ月で300ステージやってきたんですよ。週6で毎日30分4ステージ。しかもステージなのに投げ銭形式で

もあのスタンドの装置を見て、いいなって思ってくれる人がいたら嬉しいですね、学生ジャグラーとかの中に。

(米) いいなと思う人はいるけど、お金とかの理由で作れないから諦めちゃうっていう人も中にはいるよね。

(智) そうですね。ただ、工夫はできると思うんですよ。絶対できるんですよ！難しい技1つ覚えるのは諦めて、道具置き1個作るのが良いですよ。その前にまず衣装です。今、今のJ Fチャンピオンシップ見ても雰囲気を作るショーをやる人が多いなと思ったんです。ザ・盛り上げ系みたいな感じのショーをやる人が、ほとんどのいいです。だから、雰囲気ショーをやるなら尚更、衣装と道具置きとか、ステージのモノは考えなきゃいけない。みんなそれをやってないのに、演技の曲がかかってしまうと、その時点で、僕はもう魅力が半分くらいになって観る気を失っちゃう。なんかすごくもったいない、技すごいのに！！っていう感じなんですよな。

(米) では最後にジャグラーに一言。

(智) 迷うなあ。日本のジャグリング界のなんとなくなんですけど、僕が大学生だった時より、TwitterとかYouTubeとか流行っていて、情報の入手が簡単になっているんですよ。それはカメラやっていてそれでも思うんですけど、全国で世界で情報が一気に平均化されるんですよ。って事はすぐマネされるんです。すぐ個性が失われやすいし、安易に人のパクっちゃ



◆プロとしてどうすれば成功するのか

1999年8月ノストラダムスの大予言にあった地球滅亡の時期に勤めていた会社を辞め、大道芸を始めた。今までの安定した生活とは異なる、明日の稼ぎすらどうするのかという不安定な世界に変わった。サラリーマン時代の貯金を切り崩しながらやっていく生活になり、非常に不安だった。営業した方がいいのか？ホームページを作った方がいいのか？と悩んでいることを大阪のとある芸人さんに相談したところ、その後の自分の芯を作ってくれる言葉をもらえた。

「大丈夫、大丈夫、いいものは売れるさかいに」

いいものは売れる—それは当たり前のことだが、意外と分からないことだった。衝撃を受けた。それまでお金を稼ぐために営業するのか、ホームページを作るのかと悩んでいたが、重要なのはそんなことじゃないと気づかされた。大道芸人としていいものを作る、それさえやっていけばきっと上手くいくんだというこの言葉を何か迷ったときに基準として、今まで活動してこられた。

そもそも「いいもの」とは何か？

「どういう形で、人の感情を動かすもの」

という意見が出た。それは大正解だ。ただ、他が不正解というわけではない。それぞれ自分の中で「いいものとは何か」という基準を持ってやっていくことがプロとしてやっていく上で大事である。



◆テッペンを取るため講座

テッペンを取るために大道芸の業界の中で重要なことは「**社交性**」である。例えば今回のJJFゲストである望月ゆうさく氏は、とても人当たりがいいことで有名だ。そんな望月ゆうさく氏と全く同じ技術力を持っている人がパフォーマーとして活動するとき、人当たりのいい望月ゆうさく氏の方が多く仕事を集め、チャンスを得ることになる。大道芸界でテッペンを取るためには「**打倒 望月ゆうさく**」を掲げなければならない。

◆打倒 望月ゆうさく

望月ゆうさく氏に勝つ社交性を得るためにやることは2つある。1つは挨拶である。出会う人全てに挨拶をする。控室にいる同業者、道ですれ違う人、自動販売機のジュースを交換している人、どんな人でも手当たり次第に挨拶をする。新人で業界に入ったときは誰がどのような人なのか分からないことが多々ある。「この人は関係ないな」と思って挨拶しなかったら、その人が実は大道芸人として大御所の方だったということもある。そのようなことがあると、当人に許されたとしても関係者からは悪い印象を持たれかねないので、絶対やってはならない。もう1つはよく笑うこと。例えば控室でウケるネタがあるときに大げさに笑うことで同業者からいい印象を持ってもらうことが出来る。



◆打倒 池田洋介

社交性を獲得し、技術力を持ったらいよいよ、望月ゆうさく氏と勝負することになる。同じ技術力、社交性を持って同じパフォーマンスをしてもそれでは勝てない。そこで重要になるのが「**オリジナリティ**」である。例えば池田洋介氏はジャグリングの技術の他、独自の技術を合わせたパフォーマンスで今や世界中で活躍するパフォーマーとなっている。池田洋介氏はとても素晴らしいパフォーマンスの他、社交性も高く、大道芸人として望月ゆうさく氏に勝った後は「**打倒 池田洋介**」を掲げてまだまだ勝負を続けなければならない。



◆最後に

技術力、社交性、オリジナリティもある上で、最後にパフォーマンスに重要になるのが「**魂**」である。

ディス イズ ア
スパー—ールタンツ!!
(ドンドン)
ウーッ!!!



日本ジャグリング協会
企画講演会 第9回



「ジャグラーと呼ばれて」

講師 スガハラ★フトシ (Mr.BUNBUN)



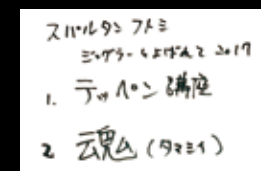
プロフィール

福岡県志免町在住。大分県出身。サラリーマン時代にアマチュアでパフォーマンスに励む。海外からのパフォーマンス映像に魅せられて周囲の大反対を押し切り、プロに転向。新天地を求め福岡へ。パフォーマーとして活動すると同時に九州の大道芸フェスティバルの相談役・サポート・プロデュースもおこなっている。～JJF2017公式サイトより抜粋～ Mr.BunBun公式サイト <http://www.mrbunbun.jp/>

編集部として、まずはお詫びしたい。

この講演会の面白さや深さをよりリアルに伝えることは、我々にはできなかった。

実際に講演会へ参加していただくしかなかったのだ。編集協力を得て文章に起こし、まとめることに挑戦してみたが、その全てを皆様に伝えることはできなかった（泣く泣くカットした部分もある）。本記事で読者が少しでも講演の内容を感じ取っていただければ幸いである。（SWJ編集部）



当日のレジュメ

講演を聞いての感想



それは予想通り、いや予想以上の面白さでした。

以前、大道芸でMr.BUNBUNのパフォーマンスを見たことがあり、腹を抱えて笑い、虜になった私は今回のJJFでMr.BUNBUNの講演があると聞いて、「絶対に普通の講演じゃない」と確信して参加してみました。そしてそれは予想通り、いや予想以上の面白さでした。講演開始から工事現場の端で交通誘導する腕振り人形に扮して登場し、突然始まる「安全太郎」という工事現場の人形としての大道芸パフォーマンス。観覧者は「講演…？」と困惑しながらもただただ笑うしかない状態から始まる、予想通りの今までに例のない講演でした。パフォーマンス後、大道芸の世界でプロとしてどうすれば成功するのか？というテーマで講演が始まりました。ただ通常ではない雰囲気は変わらず、スバルタンフトシという北斗の拳の敵キャラのような鎧で登場し、開始直後にうっかり脱げてしまいがらも、そのまま上半身裸で講演が進んでいくという謎の展開に常に笑いが巻き起こっている状態でした。講演内容は過去のご自身の経験や、ゲストの望月ゆうさくさん、世界で活躍される池田洋介さんがいかにして成功させているのかという秘訣を例に出し、それらのエピソードをMr.BUNBUNテイストの笑いに乗せて分かりやすいような、むしろそんな大筋は誰でも良くなるくらい笑わせてくれるような講演でした。プロを目指しているわけではない私にとって、講演として為になるものは正直なところあまり無かったようにも思いますが、私にとっては狙い通りほぼゲストステージじゃないのかと思えるようなコメディショーが見れてとても満足でした。 執筆者：reno.



2017

WORKSHOP

みんなのJTF 1 2017 FUKUOKA

祝九州開催



Welcome to JJF 2017

香港

お名前が聞き取れませんでした

1回目



- 1 グーグルで。
- 2 すごいですね。初めてですが、香港にはこんなに大きなジャグリングの大会がないので、びっくりしました。
- 3 また来たいです。
- 4 頑張ってください！

①I googled.
②It's amazing. I have never seen this big juggling scene in Hong Kong, so I was surprised.
③Yes, I want to come again.
④Gambatte!

香港

オーシャン

1回目



- 1 先生から教えてもらいました！
- 2 上手い人がたくさんいますね。
- 3 もちろん、先生と一緒に何回でも来ますよ。
- 4 素晴らしい！

①Teacher!
②There are many great jugglers.
③Of course. I follow him to come(Ning) to JJF.
④Amazing!

アメリカ

お名前が聞き取れませんでした

1回目



- 1 JJFのことはだれでも知っていますよ！ IJAでもたくさんの日本人が参加していて、私はチャンピオンシップの手伝いをしているの、日本人の知り合いもいるんですよ。
- 2 楽しいですね。ジャグリングもみなさんうまいですね。
- 3 もちろん！来るのは簡単ではないけど、来たいです。
- 4 みなさん親切で、とてもありがたいです。楽しんでいます。

①Everybody knows JJF! In IJA many Japanese compete, and I work for the championships so I met some of the Japanese jugglers there.
②It's very exciting. Very good juggling.
③Of course! It's hard but I'd love to.
④Thank you for being so nice to us and I'm excited to be here.

香港

フーエン

1回目



- 1 先生がJJFについて教えてくれて。
- 2 いろんな技をここで習得できて、面白いです。
- 3 もちろん！毎年来たいです。
- 4 デビルスティックをたくさん見たいですね。（注：彼はデビルスティックジャグラー）

①Because my teacher told me about the festival.
②I learned so many tricks here and it's exciting.
③Yes, I want to come every year.
④I want to see more and more Devilstick tricks here!

香港

トム

1回目



- 1 先生が教えてくれました！
- 2 たくさんのうまいジャグラーを見ました。すごいです。
- 3 もちろんーん。
- 4 日本のジャグラーはクリエイティブですね。もっといろんな技を吸収していきたいと思います。

①My teacher!
②I saw many good jugglers here! Impressive.
③Yeeeees, of course.
④Japanese jugglers are very creative. I hope to learn more tricks from Japanese jugglers.

香港

チュンニン

3回目



- 1 友達から聞きました。
- 2 すごい！
- 3 はい。
- 4 もっとゆっくり上手くなってください、追いつけません（笑）

①My friend told me about JJF
②Amazing!
③Yes.
④Don't grow too fast, I can't follow.

イスラエル

アミット

1回目



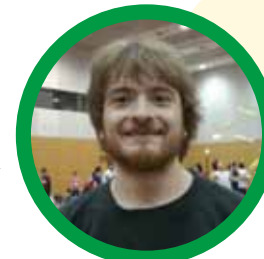
- 1 グーグルで。
- 2 とてもいいです。
- 3 もちろん。
- 4 今後もこのまま頑張っていってください。

①I just googled.
②It's amazing.
③Definitely.
④Keep on doing what's you're doing. Inspire us all.

アメリカ

グレッグ

3回目



- 1 日本に初めて来た時、一番有名なジャグリングのイベントがJJFだったので。
- 2 楽しいです。
- 3 もちろん。
- 4 一緒に話をしましょう。

①When I first came to Japan, I heard a lot about JJF.
②It's exciting.
③Of course!
④Don't hesitate to talk to us.

ドイツ

ヤン

1回目



- 1 インターネットで見たのが最初だったと思います。
- 2 みんな優しく、素晴らしいですね。
- 3 もしお金に余裕ができて、有名になったら来たいです（笑）今回の旅でお金を全て使ってしまった。
- 4 日本のジャグラー、大好きです。

①I saw it on the Internet I think.
②People are nice. Amazing.
③When I have enough money, yes. This time I spent all my money to come to Japan. One day when I'm rich and famous, I'd like to come back again.
④I like Japanese jugglers.

名前 & 出身 Name, Nationality
参加回数 How many times have you joined JJF?

- 1 JJFをどうやって知りましたか？
How did you know about JJF?
- 2 印象
What do you think about JJF?
- 3 JJFにまた来たいですか？
Do you want to come again?
- 4 日本のジャグラーに一言
Any comment for Japanese jugglers.

アメリカ

アーロン

3回目



- 1 忘れました。
- 2 手が痛くなる（笑）バレークラブで。
- 3 もちろん。
- 4 みんなそれぞれの自分のスタイルがあって、面白い。ぜひ続けてください。

①I don't remember.
②My hand are aching because of volley club.
③Of course.
④Everybody has different style and it's interesting. Please keep it up.

イギリス

ローレンス

3回目



- 1 あまり覚えてないです。5年前の三島が初めてのJJFでした。
- 2 相変わらずレベルが高い。EJCとかと比べても。
- 3 もちろん。
- 4 ぜひもっと話しかけてください。

①I don't remember very well. The first one for me was in Mishima, 2012.
②General skill level is very high as always even compared with other bigger conventions like EJC.
③Of course.
④Please don't hesitate to talk to us.

JJF2017

参加しての感想

昨年に引き続き皆様からJJFに参加しての感想を投稿していただきました。皆様それぞれにJJFを楽しんでいたことが分かり、編集部としても嬉しくなりました。ジャグリングはもちろんのこと、人と人との縁もJJFを盛り上げる一つですね。感想にはもちろん、JJFに関して厳しいご意見もいただいています。紙面の都合上、掲載には至りませんでしたが、そのようなご意見もきちんと読ませていただきました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました！

みずめさん

ジャグ歴：10年以上 JJF参加：5～9回目

学生の全盛期のあと、少しジャグリング界からは離れましたが、社会人として落ち着いた頃にやっぱり簡単には離れられないと思ったのはJJFの記憶があるから。今年もそんな思い出が増えました。そして来年の開催を日々の練習のモチベーションとしたいと思います！

らっせ～ら世良さん

所属：ジャグ先端 ジャグ歴：5～9年 JJF参加：2～4回目

日本の西側で行われたことはとても良い 練習会場が狭い CSGSの値段はまだ上げてもいいが、練習場所への入場をもう少し安くしてほしい

errorさん

所属：STOKE BUM ジャグ歴：10年以上 JJF参加：初参加

『秋の研修旅行』として、当グループに所属する小中学生の子どもたちと一緒に参加しました。会場ではたくさんさんのジャグラーの皆様へ声を掛けて頂き、子どもたちも「触ったことのない道具の使い方や、難しい技の練習方法など、すごく丁寧に教えてもらった」と喜んでおります。同年代のジャグラー少年たちとの出会いもあり、モチベーションも大いに上がったようです。子どもたちも僕も、大満足・大興奮の3日間でした。お世話になりました皆様に、この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。本当に有り難う御座いました。

ラジオ人間さん

ジャグ歴：5～9年 JJF参加：5～9回目

JJFの参加は初めてではなかったが、普段は「ぼっち部屋ジャグラー」である自分にとっては、とても刺激的だった。そして、ずっと1人で部屋で練習していると、人がたくさんいる場所では、普段出来る技も出来なくなると再確認した。WS「コンバット」に参加したが、普段はクラブを1本、2本、3本と本数を増やしながら練習していたのが災いし、いきなり3本で始めることが出来なかった。今回、現地でシガーボックスを購入し、初めてシガーボックスに挑戦した。シガーボックス使いの方が、丁寧に時間を掛けて教えてくれてとても難かった。休みの都合で3日目は参加出来なかったが、とても楽しいJJFだった。

げもげさん

所属：無所属(福島大じゃぐるべOB) ジャグ歴：10年以上 JJF参加：2～4回目

JJFには様々な楽しみ方が存在する。参加回数を重ねるごとに、そう感じるようになりました。全国各地のジャグラーと一緒に「練習して」楽しむ。チャンピオンシップやゲストステージを「見て」楽しむ。久しぶりに会った人と「話して」楽しむ。ワークショップや企画講演会で話を「聞いて」楽しむ。夜になったら皆と「飲んで」楽しむ。ついでに普段来ることのない街を堪能する、というのも醍醐味だと個人的には思います。すごい人が多いため圧倒されることも多いですが(私は今でも圧倒されていますが)、実際は自身のジャグリングの実力にかかわらず、それぞれが何らかの楽しみ方を見出せるのがJJFというイベントの魅力の一つ、懐の深さなのではないでしょうか。そんなわけで今年も満喫することができたのでした。皆さんありがとうございました。

hanehitujiさん

所属：スタジオジャグリ ジャグ歴：5～9年 JJF参加：2～4回目

今回で4回目の参加となります。沖縄から来ていますが、今年はずっとより近くて嬉しかったです(笑)今回はWSを2つ担当したり、他の道具に触れたりと来る度に新しさも発見できるなぁと実感しました。なにより、全国各地のジャグラーとの交流できる時間が楽しすぎて来年が待ち遠しいです。楽しかったのですが、どうやらJJF史上初?のケースの怪我で、運営に迷惑をかけることになりました。迅速な対応のお陰で大事には至らなかったのですが、この場を借りて感謝をお伝えいたします。最後に、ジャグリングをする皆様へ一言だけ。降ってくるものに気をつけて、怪我のないようにジャグリングライフをエンジョイしましょう。

黒珈琲さん

所属：9JUC ジャグ歴：1年以内 JJF参加：2～4回目

「JJS」「サイモンセツ」「女子ジャグラーの集い」の裏で「筋トレWS」を行なったので、「これは人集まらないな笑」とか思ったら、計33人ほど集まってくれました！友人に多めに刷っておくように言われて30部刷った資料も足りず、全員で横になった時にギリギリのスペースになってしまいました…(嬉しい反面、参加者の皆さんにご迷惑おかけしましたorz) 全国各地のジャグラーさんに集まっていたが、とても緊張しましたが、終わった時に多くの方から質問をいただいた上に、終わった後「また来たい」「次は友人を連れて来る」などの声をかけてもらって、WSやってよかったと実感しました！ただ、一つ心残りがあるとすれば、閉会式にジャグラー体力測定の発表が無かったので、「これが筋トレWS講師の実力だっ！」と言えなかったことです笑

匿名希望さん

ジャグ歴：10年以上 JJF参加：5～9回目

関西で流行りの「クロスアームシガーボックス」を九州のシガーに広められたことが何より嬉しかったです。今後のジャグリング会のますますの発展が楽しみです！

SHOGUNさん

所属：電気通信大学ジャグリングサークルPassage ジャグ歴：5～9年 JJF参加：5～9回目

ゲストステージにチャンピオンシップにラーメンにもつ鍋に飲み会に非常に盛り沢山のJJFでした。今年は初の福岡での開催でしたが、福岡には新幹線も飛行機も止まるため、行きやすかったです。今回、私は実行委員のワークショップ担当として働いていました。ワークショップに参加された皆さんが楽しげな表情で練習会場へ戻るのを見かけて、なんだかとても嬉しく感じました。JJFのことが好きなので、今後も何らかの形で協力できればと思います。ワークショップ担当としての仕事がない時は1人の参加者としてJJFを楽しんでいました。特に印象に残ったイベントは智士さんと望月ゆうさくさんによるゲストワークショップです。お二人とも演技作りに関する内容で非常にためになりました。来年のJJFも、今から楽しみです。実行委員の皆さん、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました！

じゃぐたくさん

所属：じゃぐなぎ ジャグ歴：10年以上 JJF参加：10回目以上

今回の開催は初日が平日にも関わらず、社会人の参加率の高さに驚きました。(人のことは言えませんが)

Giriさん

所属：北三陸パフォーマンスソロユニットJugGiri ジャグ歴：5～9年 JJF参加：2～4回目

すごく楽しかったです。

ウェイ村さん

所属：SPLASH ジャグ歴：1年以内 JJF参加：初参加

あの加藤侑大さんと会えてお話することができて本当に、本当に嬉しかったです。

まりもさん

所属：金沢大学JMC ジャグ歴：2～4年 JJF参加：2～4回目

ちょっと遠いかな、と思って初めは行くか考えた今年でしたが、本当に行ってよかったと思います。久々に知っているジャグラーさんと会えた事も良かったです、何よりCSの興奮は帰っている今でも冷めません。去年も少し目が潤んだんですが、今年はハンカチ必須でした。こんな感動や驚きを得られた事に感謝で一杯です。CSに出た方皆さん感動をありがとうございます、お疲れ様です。そして自分と話してくれた人達に感謝と再会の約束を。あと誰でもいいのでディアボロカードのルール教えてください。

トオルさん

所属：埼玉大学ジャグリングサークルMillion Tricks ジャグ歴：2～4年 JJF参加：初参加

JJF初参加でしたがとても楽しむ事が出来ました！私は皿回しをメインに活動しているのですが、CSでのチーム皿回しやスティックエクステンションのエンデュランス等マイナーな道具でも満足できるようなイベントばかりでした。次回行く時には1人ではなく同級生や後輩も連れて行きたいです！

カメラマンさん

ジャグ歴：10年以上 JJF参加：5～9回目

ステージが最高でした

Cigaoさん

所属：静岡県立大学ジャグリングクラブ五臓六腑 ジャグ歴：5～9年 JJF参加：5～9回目

初めての九州でしたが、天候にも恵まれ目一杯楽しむことができました。また、沢山の友達と再会し、知り合えたJJFでもありました。非常に有意義な時間を過ごすことができ満足しています。

さかもと！さん

所属：宮ジャグ！ ジャグ歴：2～4年 JJF参加：2～4回目

仕事のため2日目からの参加でした。CSGSなどの日程が良く、途中参加でも十分に楽しむことができました。会場もアクセスが良いこととシガーボックスが隔離されていなかったことが嬉しかったです。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

トラヨシさん

所属：野洲ジャグリングサークルメロンボール ジャグ歴：10年以上 JJF参加：10回目以上

JJFのお陰で初めて福岡に来ることができました。ジャグリングして夜は美味しい博多グルメが食べれて最高でした。スリンキーWS、ハットブレイクアウト、ハット初級(なんでも道場内)を開催させていただき、参加してくれた方々に感謝です。今年は個人的チャレンジでJJSにもスリンキーで初出場し、見事予選落ちでしたが楽しかったです！ハット「だるま落とし」という技で広幡杯にノミネート(受賞ではない)できて、また来年も狙うぞ！という意気込みです。最後にJJFを開催してくれた実行委員の方々に最大級の感謝をこめて「ありがとうございました！」

エンデュランス競技会報告

5 ボールバウンス

- 1位** れの (moai) **2分18秒**
2位 たなか ゆま (SPLASH)
3位 記録なし

皿回しスティックエクステンジ

- 1位** 花田 充 (9JUC) **1分16秒**
2位 まさやん
3位 いっせい (JUG6/フラトレス)

3 ビハインドザネック (1 カウント)

- 1位** 為金 克崇 **2分**
2位 とうもろこし畑
3位 加藤 侑大 (マラバリスト)

けん玉 もしかめ

- 1位** 浜谷 翔大 (Jenga) **1分58秒**
2位 こ〜ら
3位 やすなり (Hocus Pocus)

クラブバランス

- 1位** 85takō **1時間1分**
2位 こにたそ
3位 中野 慧

3 シガーボックスレインボーループ

- 1位** A → G (坂東伸明) **5分32秒**
2位 カイン (KMJ)
3位 maru (ビルエット)

4 シガーボックスダイヤモンドループ

- 1位** カラ松 (マラバリスト) **1分00秒**
2位 ティフミン
3位 シガ男 (修道中学高等学校ジャグリング同好会)

4 シガーボックスダンスーズ

デビルメントループ

- 1位** hanehituji (スタジオジャグリ) **20秒**
2位 シガ男
3位 スミス (五臓六腑)



5 クラブカスケード

- 1位** こにたそ **32秒**
2位 北島 大輔
3位 たくぞー

2 デビルスティックアイドリング

- 1位** ナーリィ (Shangri-La) **14分05秒**
2位 たもん (Patio)
3位 木村 太郎 (ジャグリングユニット フラトレス)

2 デビルスティックプロペラ

- 1位** わっち (Possum) **5分03秒**
2位 すこんぶ
3位 Cheung Chun Ning

デュアル傘回し

- 1位** 宿里 美緒 **1時間36分42秒**
2位 やすなり (Hocus-Pocus)
3位 コータロー

10 クラブパッシング

- 1位** 村上、田辺 **6秒**
2位 林、Floyd Fischer
3位 FOKG

9 クラブパッシング

- 1位** 林、Floyd Fischer **9秒**
2位 FOKG
3位 こにたそ、たくぞー

8 クラブパッシング

- 1位** 北島、田辺 **1分33秒**
2位 林、Floyd
3位 フレディ、村上

7 クラブパッシング

- 1位** 北島、田辺 **1分17秒**
2位 はっとり (Donuts)、カド (Patio)
3位 林、ゆりりん

5 ボールカスケード

- 1位** Jan Daumin **16分00秒**
2位 横山 佑介 (RefleX)
3位 田辺 聡 (Shangri-La)

5 ボールカスケード (女子部門)

- 1位** 楠本 菜月 (JSK) **37秒**
2位 みーちゃん (姫ジャグ)
3位 とび (日本クラブバレー協会)

7 ボールカスケード

- 1位** 野村 亮太郎 (Patio) **6秒**
2位 南 孝太郎
3位 たくぞー

5 リングカスケード

- 1位** 斎藤 仁 (ジャグボーイズ) **58秒**
2位 じゃぐたく (じゃぐなぎ)
3位 小林 智裕

2 ディアボロハイトス (女子部門)

人数不足のため未開催

3 ディアボロハイトス

- 1位** 工藤 正景 (Possum) **1分11秒**
2位 じゃぐたく (じゃぐなぎ)
3位 トヨシマ

5 ボールシャワー

- 1位** 依田 直也 (infinity) **25秒31**
2位 中田 哲 (Donuts)
3位 こ〜ら

6 ボールファウンテン

- 1位** 中野 慧 **23秒09**
2位 加藤 侑大 (マラバリスト)
3位 こ〜ら

8 ボールファウンテン

記録なし

開催ワークショップ一覧

開催日	ワークショップ名	講師名
1日目 9月22日(金)	けん玉初級	小川大賀
	スリンキーでジャグろう！	トラヨシ
	コンバット	たくぞー
	目指せ！手羽先マスター！	Aki
	ディア紐をつかったマクラメ編み	井出すさ子 (スサン)
	初級者、中級者向け3poi講座	ボーイ魔人
	かたもみワークショップ	井出すさ子 (スサン)



2日目 9月23日(土)	第7回JJFマスターズの集い	(主催) 西野順二
	デュアルデビルスティック基本	aki
	楽しいディアボロ	齋藤哲範 牧本光輔
	★ディアボロ・テクニック Diabolo Technique	Guillaume Karpowicz
	演習で学ぶサイトスワップ入門	西野順二
	皿回しだってジャグリングです	まさやん
	第16回サイトスワップシンポジウム (正式名 “SSS0016”)：サイトスワップ上級	西野順二
	★学生ジャグラーのためのショーの作り方	智士
	羊の4箱入門 ― 1技のみから1分以上へー	hanehituji
	Let's enjoy cigar numbers～羊の4箱解体新書～	hanehituji
★…ゲストワークショップ	叩いて遊ぼう！ カップスの部屋	ぐるくん
	肘を使う	ジョナ
	身体の使い方講座 (脱力と緊張)	まえけん
	リング (トス) のフォームをよくしよう！	石黒大智

3日目 9月24日(日)	ハットブレイクアウト	トラヨシ
	はじめてのスタッフからのブレイクアウト	米屋遊
	女子ジャグラーの集い	みずめ
	ジャグラーのための筋トレWS	武藤大河 (とらさん/黒珈琲)
	とりあえずやってみる傘回し	宿里美緒
	★オリジナル表現の作り方 ～技の落とし穴からの脱出の先に～	望月ゆうさく
	★…ゲストワークショップ	



※敬称略 ※各種目5名以上の参加希望者がいない場合は実施しない。 ※これ以外の種目に関しても、参加希望者が10名以上集まる場合は実施を検討する。 ※本競技会の記録は協会公認の公式記録になる。 ※5秒前からカウントを始めるので自分のタイミングで開始すること。ただしカウントが0になった時点から計測を始める。
※終了後、上位3名までの結果をJJF公式WEBサイト等で発表する。

2017年度 第15回 広幡杯・夏目杯

広幡杯



クロ助

受賞理由

「クロスアームシガーの重ねてのこだわり」
副賞：うまれて！ウーモ

夏目杯



貫井洋介

受賞理由

「頭をつかいこなしたボールジャグリング」
副賞：ファットヘッドクラブ

過去の広幡杯・夏目杯

2003 広幡杯 Mr.ドミノ 夏目杯 森田智博
2004 広幡杯 オマールえび すず 夏目杯 信玄餅 (Komei Aoki)
2005 広幡杯 森俊行 夏目杯 石川丈寛
2006 広幡杯 岡本光平 中村佐和子 夏目杯 小嶋佑樹 夏目杯日本賞 Mr.ドミノ + 平野まさき
2007 広幡杯 パティオの人たち (森俊行 水ノ江恭介 水野祐 古谷創) 夏目杯 岡本晃樹
2008 広幡杯 森俊行 夏目杯 山村佑理
2009 広幡杯 吉中全力と夢トランク 夏目杯 村上翼
2010 広幡杯 チャンネルppqp 夏目杯 佐藤信春
2011 広幡杯 とらよし 夏目杯 松村高朗
2012 広幡杯 応地隆明 広幡杯審査委員特別賞 立谷健太郎 夏目杯 大橋昂汰
2013 広幡杯 SUN太 広幡杯審査委員特別賞 チーム部門 SUN太とじゅにあ、
広幡杯審査委員特別賞 うさぎのもみじ 広幡杯審査委員特別賞 アーロン
夏目杯 Darren Wakefield (ダレン・ウェイクフィールド)
2014 広幡杯 宿里美緒 広幡杯審査委員特別賞 たくぞー 広幡杯審査委員特別賞 森下翔 夏目杯 武倅平
2015 広幡杯 クロ助 広幡杯審査委員特別賞 やどりん 夏目杯 亀井大輝
2016 広幡杯 カッキー 広幡杯審査委員特別賞 まさやん 夏目杯 ハチロウ

フリーパフォーマンス

ジャグリングを見せるもよし！見せなくてもよし！
面白いネタであれば大歓迎のイベントです。今年の
会場も満員御礼。5分の中に個性が光りました。

出演者一覧

aki	いっせい
hanehituji	JJSデモンストレー
まっきーちえん	ション(KASSAN、
よってい	Daggle KOMEI、小林
ひかる	智裕、まっきー、Kim)
チーム260	るき
じゃぐたく	かすや

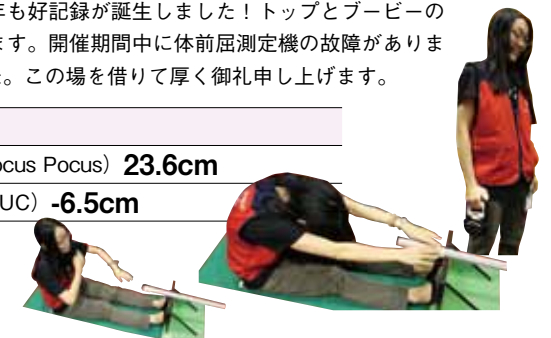


ジャグラー体力測定

昨年からスタートした体力測定。あなたの体力はいかがでしたか？今年も好記録が誕生しました！トップとブービーの方には賞品を贈呈。ぜひ次回開催の際は皆様のご参加をお待ちしています。開催期間中に体前屈測定機の故障がありましたが、きぞは工房様のご協力により測定を継続することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

握力部門		体前屈部門	
トップ	黒珈琲 (9JUC) 68.2kg	ノエル (Hocus Pocus) 23.6cm	
ブービー	もちだ (Trick or Treat) 24.3kg	黒珈琲 (9JUC) -6.5cm	

※敬称略 ※名前、(所属)、記録(握力kg、体前屈cm)の順に表記



現地調整チーフ担当:近土 拡之

この度、JJF2017 in Fukuokaの現地調整チーフ担当を務めさせていただきました、ビルエットOBの近土拡之と申します。社会に出てからはほとんどジャグリングに触れる機会を失っていた私ではありましたが、運営の形としてであれば、大きなイベントにも携わることができるのではと、常日頃より考えておりました。そのなかでこの福岡開催のお話をいただいたことで、このイベント運営という立場に携わらせていただく決心をいたしました。

当初は実行委員の活動に当たり、会場探しや場所の調整、現地スタッフの確保など様々な課題が浮き彫りとなる中で、JJFを福岡で開催することこの難しさを痛感したことを記憶しています。

しかしながら、九州ジャグラーの方々にご尽力頂いたこともあって、会場の選定、人材の確保、さらには当日の運営スタッフなど、スムーズにかつ質の高い環境を得られたことにより、大きなトラブルもなくJJFの運営を全うすることができました。

この経験を通して私は、九州の結束はさらに深いものになったのはもちろんのこと、九州ジャグリングの活性化にも繋がったと感じており、改めて、地方開催の重要性を実感することができました。

最後になりますが、理事の方々、実行委員関係者様各位、そして何よりイベントに参加してくださった皆様方に、多大なる感謝の意を表させていただきます。ありがとうございました。



現地調整サブ担当:花田 充

JJF2017現地実行委員の花田充です。文章で自分を表現するのが得意ではないので拙い文章になってしまいかもしれませんが、JJFに対する自分の思いをお伝えできればと思います。

私は「現地調整サブ担当」という役職に就かせていただきました。この役職を一言で説明すると、「現地の仕事をいろいろやる人」です。本当にたくさんの方々に関わらせていただきました。その活動の全てにコメントをするには紙面があまりにも足りないのです、私が主として関わった「新入生交流会」と「現地のスタッフ集め」についてコメントしたいと思います。

私は2013年にジャグリングを始め、2014年からJJFに参加しました。JJFの運営としては比較的若く経験が浅い方だと思います。一方で、JJFに参加するジャグラーにより近い存在として運営に携わらせていただきました。そのような立場において、私が一番提案したかったのが「新入生交流会」でした。

ジャグリング歴が浅い人たちの交流のきっかけ作り、初心者にも優しいイベント環境作りをしたいという思いがありました。参加して

いただいた34人の新入生の皆さん、ありがとうございました。

日本で一番大きなジャグリングイベントであるJJFの運営には多くのスタッフが必要とされています。JJF2017では福岡を中心に多くのジャグラーの皆様にご協力いただきました。私が携わった仕事の中で最も大変だったのがこの「現地のスタッフ集め」です。半年前から本番一週間前まで声をかけ続けました。皆様のご協力もあり、無事に全ポジションにおいて不足することなくスタッフを集めることができました。CS事務、CS客席、撮影補助、医療班、バッジパトロールにご協力いただいた延べ49人の皆様、ありがとうございました。

最後になりましたが、JJF2017に参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。

JJF2017実行委員名簿

●JJF2017 スタッフ
実行委員長：米屋 遊
実行委員長補佐：奥村 優子
JJF 担当理事：中村 亮介
現地調整チーフ担当：近土 拡之
現地調整サブ担当：花田 充
ウェブ関連：松村 高朗、矢巻 菜央
翻訳・通訳：Darren Wakefield
実務アシスタント：秋山 由佳里

●チャンピオンシップ事務局
チャンピオンシップ統括：黒瀬 博靖
事務局長：黒瀬 博靖
事務局スタッフ：泉 竜太、小野口 貴仁、小林 亮介、加藤 裕也、清水 岳博
事務局助手：秋山 由佳里
事務局補助スタッフ：宮脇友里恵、光安祐介、丸山浩宜

●舞台グループ
舞台進行統括：竹内 正則、武藤 美貴子
チケット責任者：奥村 優子

チャンピオンシップ客席係
メイン担当：西川 真帆
サブ担当：鈴木 仁
アドバイザー：小永井 翠、荒井 溪太
[当日運営] ビルエット：岩田唯治、山口祐太、吉田良亮、植田颯謙、新坂祐人
山元航平、大浦地堅祐、高村公平、佐伯晃一、瀬口治生、神野薫、山口史晃、

渡部晃人
チャンピオンシップ Youtube Live：江藤 謙治

ゲストステージ調整係
海外ゲスト：メイン担当 西川 正樹
海外ゲスト：サブ担当 中村 亮介
国内ゲスト担当：奥村 優子

ゲストステージ 舞台スタッフ：小林 智裕、大橋昂汰、平山朝子

ゲストステージ客席係
メイン担当：鈴木 仁
サブ担当：氷見 哲洋
アドバイザー 氷見 哲洋
[当日運営] マラバリスタ：池井戸祐輝、松野聖也、野間裕太、小高悠嗣、椎名峻平
福田暁子、伊藤城那、松永将汰、池大樹、北脇駿、尾曲紳太郎、武俣平、関翔太

●イベントグループ
統括チーフ：小林 智裕

ワークショップ メイン担当：徳川 亮祐
ワークショップ アシスタント：上野 亜揮

ジャグリングゲーム担当（フリーパフォーマンス・サイモンセッツ・ジャ

グラー体力測定）：小林 智裕
エンデュランス：今瀬 卓志
動画上映会キュレーター：コータロー
ディアポロ検定：日本ディアポロ協会
JJS 調整担当：奥村優子

企画講演会：黒瀬 博靖、奥村 優子

●大会本部グループ
統括チーフ：奥村 優子

大会本部
当日運用担当：秋山 由佳里
事前調整担当：奥村 優子

参加登録
当日運用担当：広幡 章登、秋山 由佳里
事前調整担当：奥村 優子

シヨップ担当：米屋 遊

バッヂパトロール調整：花田 充

海外参加者対応：中村亮介

医療班：熊谷知香、船原光真

●ビデオ撮影班
撮影スタッフ：江藤 謙治、小野澤 峻
撮影班補助スタッフ：紫音、橋尚斗、飯干恭平、濱地洋之

アドバイザー：関矢 昌宏

●デザイン班
フライヤー：PEEENUTS
Tシャツ：タカシエンカ
缶バッヂ：瀬田 カズヒロ

●Shall We Juggle? 編集部
編集長：たまきゆかり
副編集長：米屋 遊
顧問：夏目 鶴吉
編集員：岡本光平
編集協力：いけやん
撮影：Kyoko、本郷仁一、瀬田カズヒロ、Q

●主催：NPO 日本ジャグリング協会
理事長：本郷 仁一
理 事：黒瀬 博靖
理 事：植野 洋子
理 事：増田 俊康
理 事：中村 亮介
理 事：桔梗 崇
監 事：松岡寿典
顧 問：夏目 鶴吉
事務局長：広幡 章登

※ 2017 年 9 月 18 日現在

[参考サイト] <http://www.juggling.jp/jjf/2017/jp/staff.html>



理事会から

日本ジャグリング協会正会員の皆様
役員選挙を9月22日（金） JJF2017
期間中の総会にて行い、日本ジャグリング
協会の今年度役員が決定しましたのでここ
にお知らせいたします。

理事（5名） ※届出順
・小野嶋勇介
・植野洋子
・本郷仁一
・黒瀬博靖
・中村亮介
監事（1名）
・松岡寿典

「所信」 小野嶋勇介氏

今年度を含め、今までチャンピオンシップ
の審査委員候補を4年間やらせていただき
ました。その中で、いくつか課題も見えて
きました。それらの課題を解決し、チャン
ピオンシップをより良いものにしていくた
め、理事に立候補いたします。

所信は以下の2つです。
1・新たな審査委員候補の公募制
問題点…審査委員候補が年々減少していま
す。今のペースだと将来の継続性に不安が
あるため、審査委員候補を増やす必要があ
ります。

今の制度では、現任審査委員候補からの推
薦からでしか新たな候補者を追加できませ
ん。現任審査委員候補からの人づてには限
界があり、また、着任要請後に断られる場
合も多く、なかなか増えないのが現状で
す。

解決案…審査委員候補をやりたい方に立候
補してもらい、その中から選出します。今
までとおり推薦も並行して行うことで、審
査委員候補の数を増やします。

2・予選審査フィードバックコメントを決
勝進出者にも送る

現在、予選審査のフィードバックコメント
は落選者のみに送られており、決勝進出者
には送られていません。
決勝進出者にもフィードバックコメントを
送ることで、結果発表から決勝までの期間

は短いですが、より演技に磨きをかけるた
めの材料を増やします。

植野洋子氏

まずはSWJについてです。

昨年度、SWJの定期発行を年1回に変更
しました。

年2回の定期発行を推進していましたが、
ボランティアで成り立っている編集部全体
において取材に行くことが困難となり、編
集作業に時間をとれない状況が続いていた
ためです。

JJFに特化した内容を、これまでよりボ
リュームを増やして発行していきます。
過去に取材して発行できていない号につき
ましては、編集を進めている状況です。
なるべく早くお届けできるようにサポート
していきます。次にジャグリング検定につ
いてです。

2014年以降、人員不足のためジャグリ
ング検定を開催できていません。

継続して開催していくためには、開催方法
から改めて考え直す必要があります。

今後のジャグリング検定自体のあり方につ
いて、理事会内で検討していきます。
定期会員総会には、子供がまだ小さく選出
が難しいため、出席することができません。
申し訳ありませんが、よろしくお願
いいたします。

本郷仁一氏

協会理事に就任させていただいてから8
年、微力ながら協会の運営に携わらせて
いただきました。また現在までの5年間は理
事長という重責を務めさせていただいてお
ります。

これまで役員としての責任を全うし、日本
ジャグリング界の未来のため、JJFに参
加するみなさまのため、協会が安定して運
営できるよう取り組んできました。これか
らは次世代の方々がより活躍出来る場づく
りのできるかぎりの協力をさせて頂きたい
と思います、再び理事に立候補させていただき
ます。

また、毎年拡大してきたJJFを首都圏で
今後も継続して開催できるよう検討を続
けてしていくと共に、2003年仙台・
2015年郡山に続き再び東北地区にJJF
が戻ってくる日を夢に描き邁進していく
所存です。
みなさまよろしくお願いたします。

黒瀬博靖氏

ジャグリング協会理事になってもう8年が
過ぎました。

今まで、皆さんの信任が得られれば10年は
理事として協会をサポートしようと思っ
ていました。ですが、どうもそこまで継続で
きない状況になってしまいました。その原
因は継続的な体調不良です。

今年はぎりぎりの状態でJJF2017準
備作業を行っていました。

そのまま倒れてしまって、とも思いまし
たが、スムーズな業務引継ぎのためにはも
う1年理事を継続するのが望ましいと判断
して、今回の立候補に至りました。

理事選挙で選ばれた際には、今後1年間理
事を担った後、協会業務全般から引退する
予定です。

今年度は次の業務を行っています。
・チャンピオンシップ（CS）担当理事
・Web開発担当理事

・講演会担当理事
・社会貢献担当理事
・協会予算作成担当理事
・映像（アフタヌーンビーク）担当理事
・CS音楽著作権担当

・2017年度CS事務局長
CS担当・Web担当は理事の中で引き継
ぐ必要があります。
社会貢献と講演会は私の発案で始めたもの
です。で、できなくなってもそれでJJF
の運営がまわらなくなるというものではあ
りません。

やめてしまうことも選択肢となるでしょ
う。
今年度CSにおいてはWeb入力導入など
各種制度・システム変更を行いました。

この変更対応のため、私が今年度事務局長
を兼ねました。実務がだいぶ減ったので、
CS事務局をJJF実行委員会に統合する
ことができるかもしれません。（ただし
CS業務で通年働くスタッフが必要なこと
は変わりません。）
そのJJF実行委員会の枠組自身も見直し
の時期にきているように思われます。
安定したJJF運営には皆さんの協力を必
要としています。
残り1年間よろしくお願いたします。

中村亮介氏

昨年はJJF2017の開催とジャグリン
グを文化として捉えた活動の2点を所信と
して掲げておりました。
振り返りを含めまして、本年の所信表明、
ならびに立候補させていただきます。

JJFの開催について

JJF2017の開催まで1週間を切りま
した。今年も実行委員の多大なる頑張りによ
ってなんとか開催にこぎつけることがで
きそうです。東京のスタッフのみならず、
現地スタッフが本当によく頑張ってくれた
おかげです。ここに感謝の念を表明いたし
ます。

本年の私の大きな役割はJJF2017の
予算案の作成、打ち合わせのアドバイザー
といった形で貢献ができたかと存じます。
1年を通して実行委員をさせていただいた
ことで、JJFの運営をよりスムーズに行
うための見識がついてきました。植野理
事、湯川前理事が進められてきた運営の定
型化（安定化）を組織運営になるべく根付
かせることができるようJJF2018の
運営をサポートさせていただければと思
います。

・ジャグリングを文化として捉えた活動の
推進

協会として、ジャグリングイベントへの協
賛をすることで、ジャグリング文化の推進

に寄与できていれば幸いです。やはり、
JJF以外の活動に大きな労力を割くこと
ができませんでした。期待してくださった
方には大変申し訳なく思います。

次年度の活動としましては、あまり大風呂
敷を広げることなく、ジャグリング文化に
JJFがどのように寄与できるのか。とい
うところから考え、それをJJF2018
に反映することができればと思います。

以上2点、纏めますとジャグリング文化の
発展のためにJJF2018をより実りの
あるものにします。という思いのもと、進め
て参りたいと思います。

松岡寿典氏

日本ジャグリング協会の監查理事を務め
させていただいて4年が過ぎようとしていま
す。

監查理事として理事会運営の監査、会計の
監査を主務として、協会の活動が目的に
沿ったものであるかをみてきました。協会
の公式WEBサイトに定款が公開されてい
るので読んだことがある方もいるかと思
います。読んでみると協会の目的、活動、事
業は幅広く掲げられているのがわかりま
す。これらの活動をより多く行っていくに
は会員の方々の参加がかかせません。学校
のサークル活動、各地域で開かれている練
習会、大会、舞台、慰問公演など各個人・
団体の活動がジャグリングという文化を広
めていくためにとても役に立っています。
今後もこの広がりが続くことを祈念しつ
つ、その活動の一部として手助けができれ
ばと思い立候補しました。よろしくお願
いします。

【参考】

（役員）
第13条 本会に次の役員を置く。
理事 3名以上
監事 1名以上
2 理事のうち1人を理事長とする。

【日本ジャグリング協会事務局】

E-mail info@juggling.jp
WebSite http://www.juggling.jp/
郵便為替口座 00100-10142916
(加入者 日本ジャグリング協会)

■各種お申し込み・お問い合わせは上記事務局までお願いいたします。

■本誌は日本ジャグリング協会の協会員に無料で随時送付されます。

■本誌バックナンバーをご希望の方は、まず事務局まで希望の号と部数をお知らせ下さい。
振込のご案内をお送りいたします。

Japan Juggling Festival 2018 in Tokyo

JJF2018は東京にて開催！
記念すべき20回目のJJFです!!

日程 2018年10月6日（土）～10月8日（月・祝）
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

日本ジャグリング協会オフィシャルマガジンShall We Juggle? No.59
発行 特定非営利活動法人日本ジャグリング協会 Shall We Juggle? 編集部

【Shall We Juggle? 編集部】

編集長 たまきゆかり
副編集長 米屋遊
編集主幹 たまきゆかり
編集員 夏目鞠吉 岡本光平
撮影 Kyoko 本郷仁一 Q 瀬田カズヒロ
タカシエンカ 西野順二 米屋遊 たまきゆかり

表紙 レイアウト いけやん
編集協力 瀬田カズヒロ
協会誌担当理事 植野洋子
E-mail swj@juggling.jp
Web http://www.juggling.jp/swj/

